

第七十四回帝國議會
衆議院
宗教團體法案委員會會議錄(速記)第十六回

會議

昭和十四年三月二十二日(水曜日)午後二時
十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 安藤 正純君

理事北 吟吉君 理事長井 源君

理事世耕 弘一君 理事立川 平君

鶴見 祐輔君 紫安新九郎君

作田高太郎君 藤田 若水君

村瀬 武男君 大島 寅吉君

西田 郁平君 石坂 養平君

高見 之通君 加藤 知正君

松岡 俊三君 曾和 義式君

松山常次郎君 河上 哲太君

高岡 大輔君 赤松 克麿君

杉山元治郎君 鈴木 文治君

椎尾 辨匡君 三田村武夫君

出席國務大臣左ノ如シ

文部大臣 男爵荒木 貞夫君

出席政府委員左ノ如シ

營繕管財局理事 江口 順一君

文部省宗教局長 松尾 長造君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

宗教團體法案(政府提出、貴族院送付)

寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ

處分ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送

付)

○安藤委員長 開會致シマス、宗教團體法

案ニ付テハ質問ガ過日終リマシタノデ、本

日ハ討論ニ入ルノデアリマスガ、ソレニ先

ダチマシテ、回教ニ關スル問題ハ、此ノ委

員會ニ於キマシテ相當論議ノ焦點トナツタ

コトデアリマスカラ、此ノ機會ニ文部大臣

カラ、回教ニ對スル御所見ノ御明示ヲ希望

致シタイノデアリマス

○荒木國務大臣 過般來屢、質疑應答ヲ重

ネラレマシタ回教ノ問題ニ付キマシテ、一言

私カラ申上ゲテ置キタイト存ジマス、回教

ハ其ノ信徒數億ヲ算スト稱セラレテ居リマ

シテ、世界ノ三大宗教ノ一タルコトハ一般

ノ知ル所デアリマス、而シテ該信徒ハ最モ

東洋ニ多ク概ネ共產主義ニ強ク反對致シテ

居ルノデアリマシテ、此ノ點ハ吾々ノ深ク

關心ヲ持ツ所デアリマス、言フマデモナク

我國ニ於テハ憲法第二十八條ニ依ツテ、其

ノ制限ニ反セザル限り、各宗教ニ對シテ一

様ニ信教ノ自由ガ認メラレテアルノデアリ

マシテ、回教モ他ノ宗教ト同様、我國ニ於

テ信教ノ自由ヲ有スルコトハ一點ノ疑ナキ

次第デアリマス、而シテ本宗教團體法案ハ、

今日マデノ我が國內ニ於ケル各宗教ノ宗教

活動ヲ基本トシテ立案セラレタルモノデア

リマスガ故ニ、回教ヲ明記致シテハアリマ

セスガ、本案成立ノ曉ニ於テハ、回教モ他

ノ一般宗教同様、相當條項ヲ具備スル以上、

本法ニ於ケル教會等ノ規定ガ適用セラレ、

適正ナル監督ト、相當ナル保護ヲ受ケ得

ベキコト勿論デアリマス、即チ右規定ノ適

用ヲ受クルヤウニナレバ、法人格ヲ認メラ

ルルコトモ出來、又免稅ノ特典ニモ與リ、

其ノ他宗教團體トシテノ取扱ヲ受クルコト

モ當然デアリマス、以上此ノ際回教ニ付テ

申上ゲテ置キマス(拍手)

○安藤委員長 是ヨリ討論ニ入リマス――

紫安君

○紫安委員 我ハ希望條項ヲ付シマシテ本

案ニ對シテ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、

即チ

一、政府ハ時局ニ鑑ミ特ニ宗教家ノ活動

ヲ促進スルタメ速ニ適當ノ方策ヲ講ズ

ベシ

二、政府ハ宗教教師ノ資格向上ニ付特ニ

考慮ヲ拂ヒ遺憾ナキヲ期スベシ

三、政府ハ將來宗教團體内部ニ於ケル各

種ノ選舉並ニ宗教ノ名ノ下ニ於ケル營

利ヲ目的トスル行爲ニ付嚴重ナル監督

ヲナシ其ノ肅正ニ努ムベシ

右申述ベマシタル希望條項ハ、本委員會

ニ於ケル各黨派ノ一致セル意見デアリマス、

而シテ更ニ私一個ノ意見トシテ申上ゲテ

置キタイ事柄ハ、宗派、教團ノ認可其ノ他

宗教ニ關スル重大ナル問題ノ認可ニ當リマ

シテハ、今後文部省ニ御設ケニナリマスル

宗教調査會トモ言フベキ機關ニ御諮問ヲ願

ヒタイト思フノデアリマス、是ハ申上ゲル

マデモゴザイマセズ、當局者ト致シマシテ

ハ、不公平ノ取扱ヲセヨト言ハレマシテモ、

局ニ當リマスレバ成ベク公平嚴正ナル取扱

付託議案

宗教團體法案(政府提出、貴族院送
付)
寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有
財産ノ處分ニ關スル法律案(政府
提出、貴族院送付)

ヲスルト云フコトガ、當局者ノ考トハ存ジマスルガ、文部當局者ニ於キマシテモ、ソレゾレ奉ゼラレル所ノ宗教ガアルト思フノデゴザイマス、假ニ文部當局ノ信ゼラレル宗教ガ佛教デアルトシタ場合ニ、神道ナリ基督教其ノ他ノ宗教行爲ニ付キマシテ監督セラレル場合ニ、適正ナル處置ヲ御執リニナツタト致シマシテモ、奉ズル宗教ヲ異ニ致シテ居ル者カラ考ヘマスト、何カ不公平ナ取扱ガアツタカノ如キ感ヲ懷ク虞ナシトセヌノデアリマス、斯様ナ考カラ致シマシテ、私ハ以上申上ゲタヤウナ意見ヲ茲ニ表示致シテ置ク者デゴザイマス

○安藤委員長 立川君

○立川委員 私ハ立憲政友會ヲ代表致シマシテ本案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、只今紫安君ノ御述ニナリマシタ希望條項ハ各派ノ共同提案デアリマスルカラ、之ヲ朗讀致スコトヲ避ケマスルケレドモ、一言所見ヲ申上ゲテ賛成ノ意ヲ明ニ致シタイと思フノデアリマス、今ヤ我國ハ曠古未曾有ノ事變ニ際會シテ居リマスルノデ、此ノ事變ガ人心ニ與ヘル影響モ亦非常ニ大キナモノガアルノデアリマス、此ノ際國民精神ヲ振興シ、人心ヲ安定セシムルニハ、宗教家ノ活動ニ俟ツモノ頗ル大ナルモノガアルト信

ジマス、獨リ國內ニ於テノミナラズ、占領地區ニ於ケル宣撫工作ニ於キマシテモ、宗教ニ委スベキ範圍ハ頗ル大ナルモノガアルノデアリマス、此ノ重大ナル使命ヲ達成致シマスルニハ、宗教家ノ發奮努力ヲ求メルコト勿論デアリマスケレドモ、國家モ亦之ニ對シテハ相當ナル力ヲ添ヘテヤル必要ガアルト存ジマス、即チ吾々ノ付シマシタ希望條項ノ第一ハ其ノ意味ヲ示シタモノデゴザイマス、斯ノ如クニ宗教家ノ使命ガ愈々重大ニナツテ參リマシタノニ拘ラズ、現在ノ宗教教師ノ資格ヲ見マスルト、洵ニ其ノ低級ナルコトハ遺憾ニ堪ヘナイモノガアリマス、一時ニ、急速ニ之ヲ高度ニ高メルコトハ、事實上難カシイコトカモ知レマセヌケレドモ、政府ハ特ニ此ノ點ニ深甚ナル考慮ヲ拂ツテ、將來遺憾ナキコトヲ期セラレタイト思フノデアリマス、最後ノ希望條項ニ付キマシテハ、少シク申上ゲタイ點ガアリマス、即チ本法ノ立法ノ精神ハ、宗教團體ヲ保護シテ其ノ宗教ノ健全ナル發達ヲ希望スルト云フニ在ルノデアリマスガ、私思ヒマスルノニ、古來何レノ宗派、教派タルトヲ問ハズ、其ノ教祖、宗祖デアリマシテモ、或ハ之ヲ祖述シタ高德ノ人デアリマシテモ、多クハ時ノ法律ノ壓迫ニ抵抗シテ、

官權ノ妨害ヲ排除シテ苦シンデ布教傳道ニ從事シタノデアリマス、而モ其ノ教ガ人心ニ深く喰入ツテ今日ノ隆盛ヲ致シタト云フコトハ、即チ宗教ノ發達ト云フモノ、或ハ又發展ト云フモノハ、法律ヤ國家ノ保護ニノミ依存スベキモノデナイト云フコトヲ如實ニ示シタモノト信ジマス、本法ニ於テ即チ宗教團體ヲ保護スルコトハ勿論結構デアリマスガ、同時ニ此ノ團體ノ監督ヲ嚴ニ致シテ貫ヒタイ、宗教界ノ肅清ニ努メテ貫ヒタイト私共ハ希望スルノハ其ノ點デアリマス、即チ本法ニ於テ宗教團體ニ對スル保護ハ相當ニ厚イモノガアルト思フノデアリマスルガ、其ノ監督ニ至ツテハ、將來ノ政府ノ實行如何ニ懸ルト思フノデアリマス、現在ノ宗教各團體ノ内部ニ行ハレル所ノ選舉、或ハ又一部ノ人ガシテ居ル所ノ宗教ノ名下ニ行ツテ居ル營利行爲ノ如キハ、洵ニ響響スベキモノガアルノデアリマシテ、是等ノ弊風ノ一掃ニハ十分ナル努力ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、勿論宗教界ノ内部ハ、ソレ自體自ラ獨立シテ自治ノ下ニ爲スベキコトガ多イトハ思ヒマスルケレドモ、併シナガラ國家ノ大目的ニ副ハナイヤウナ場合ニハ、政府ハ斷乎タル處置ヲ執ル必要ガアルト信ジマス、此ノ點ヲ私ハ強く主張シタ

イト思ヒマス、本法ガ實施セラレマシテ宗教界ガ健全ナル發達ヲスルコトヲ衷心ヨリ希望シ且ツ期待致シマシテ、本案ニ賛成スルモノデアリマス

○安藤委員長 赤松君

○赤松委員 私ハ第一議員俱樂部ヲ代表シマシテ本案ニ賛成スルモノデアリマス、併セテ各派共同提案ノ希望條項ニモ賛成スルモノデアリマス、本法ノ制定ニ依リマシテ、多年ノ懸案デアツタ宗教團體ニ關スル根本法規ガ成立シタコトハ、我國宗教界ノ健全ナル發達ノ爲ニ洵ニ慶賀スベキコトデアリマシテ、此ノ點ニ關シマシテ文部當局ノ御苦勞ニ對シテハ深く感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス、併シ本法ガ制定サレタコトニ依リマシテ、必ズシモ直チニ宗教團體ノ活動ガ活潑ニナリ、國民精神ニ貢獻スベキモノトハ考ヘルコトガ出來ナイノデアリマス、考ヘ方ニ依ツテハ、却テ本法ガ惡影響ヲ及ボス虞ナシトモ言ヘナイノデアリマス、申スマデモナク本法ハ一方ニ於テハ取締規定デアルト共ニ、他方ニ於テハ保護或ハ特典ヲ與ヘル所ノ規定デアリマス、隨テ迷信邪教ニアラザルモノ、即チ認可サレタル宗教團體ハ、本法制定ニ依ツテ法律的ノ基礎竝ニ財政ノ基礎ガ與ヘラレ、ソレニ

依ツテ大イナル保護恩典ニモ浴スルコトガ
出來ルノデアリマスガ、若シ宗教界ノ一般
ノ自覺ト發奮ガナケレバ、此ノ保護恩典ヲ
與ヘラレルコトニ依ツテ、却テ從來ノ萎靡
沈滞ノ狀態ヲ助長スルコトニナラナイトモ
言ヘナイノデアリマス、故ニ本法制定ト共
ニ、宗教界ニ對シテハ特ニ其ノ自覺ト發奮
トヲ促スヤウニ、文部當局ノ御考慮ヲ願ヒ
タイト思フノデアリマス、サウシナケレバ
本法ノ價值ト云フモノハ決シテ發揮スルコ
トハ出來ナイデアラウト考ヘルノデアリマ
ス

其ノ次ニ、更ニ私此ノ際一言希望ヲ申述
ベタイコトハ、國民教育上ニ於ケル所ノ科
學ト宗教トノ關係デアリマス、今ヤ文部省ハ
科學教育ヲ國民ニ與ヘラレテ居ル、科學教育
ノ必要ト云フコトハ申スマデモアリマセヌ、
殊ニ現下ノ時局ニ於キマシテ、重工業ノ飛
躍ナル生産擴充ヲ必要トスル場合ニ於
テ、益々科學知識ヲ國民ニ普及スルコト云フ
コトハ非常ニ重大問題トナツテ居リマシテ、
今議會ニ於キマシテモ、高等工業學校ノ増
設、或ハ從來ノ工業教育機關ノ内容擴張ト
云フコトガ問題ニナツテ居リマスルガ、私
ハ茲ニ非常ニ注意シナケレバナラスコト
ハ、此ノ科學教育ノ發達ト共ニ、科學教育ノ

持つ一面の弊害デアリマス、從來科學ト宗
教ト云フモノハ氷炭相容レザル關係ニ居ル
モノノ如ク考ヘラレテ居ツテ、實際ニ於キ
マシテモ、科學ガ發達スレバ宗教ハ衰微ス
ルト云フコトガ一般ノ傾向デアリマス、現
ニ近代科學教育ヲ受クル多クノ青年學生ハ、
却テ宗教ヲ輕蔑スル傾向ガ滔々トシテ今日
アルノデアリマス、申スマデモナク科學ノ
特長ト云フモノハ實證主義ノナ認識法デア
リマシテ、其ノ實證主義ノ方法ト云フモノ
ハ分析的デアツテ分解的デアアルノデアリマ
ス、然ルニ其ノ現象ノ部分ニ對シテハ極メ
テ正確デアリ、精緻ナモノデアリマスケレ
ドモ、人生ヲ全體ニ把握スル、正義ヲ全體
ニ認識スルト云フ點ニ於テハ、科學ハ非常
ニ缺クル所ガアルノデアリマス、是ハ勿論
科學ノ領域ニアラズシテ宗教ノ領域デアリ
マス、所デ近代科學ノ教育ヲ受ケタ多クノ
青年學生ハ、斯様ナ部分的分析方法デ以テ
直チニ人生ヲ認識セントスル所ノ錯誤ニ陷
リマス、其ノ結果其ノ人生觀ハ極メテ淺薄、
功利主義ニ走ツテ來ル所ガ多イノデアリマ
ス、現在ノ國民思想ノ動搖ト混亂ト云フモ
ノニ付テハ、種々ナル原因ガアルト思ヒマ
スガ、其ノ一ツノ有力ナル一因ハ、科學教
育ノ齟齬シタ唯物的ナ人生觀ガ跋扈シテ居ル

ト云フノガ重大原因ダラウト思ヒマス、根
本的ニ科學ト宗教トノ乖離ガアル、是ガ現
代思想動搖ノ有力ナル一因デアアルト信ジテ
疑ハナイノデアリマス、又宗教方面ニ於テ
モ、科學ガ發達スレバ衰微スルヤウナソ
ンナ宗教ハ役ニハ立タナイ、ソナ宗教ハ本
當ノ宗教ヂヤナイト思フ、寧ロ科學ノ發達
ニ依ツテ宗教ノ内容ガ豐富ニナリ、高度ニ
達スルト云フノガ眞ノ宗教デアアルト思フ、
即チ科學思想ノ正シイ發達ノ爲ニ、其ノ根
柢ニ宗教ヲ與ヘナケレバナラス、宗教ノ健
全ナル發達ノ爲ニハ科學ノ發達モ伴ハナケ
レバナラス、兩者根本ニ於テ一致協力スベ
キモノデ、決シテ相反スルモノデナイト思
フ、我國ノ産業ガ益々工業化シ、近代科學教
育ガ益々普及サレタ時ニ於テ本法ガ制定サレ
ルコトハ、極メテ意義ノ深イコトデアリマ
シテ、此ノ際私ハ文部當局ハ、國民教育上
ニ於ケル宗教ト科學ノ綜合性ニ關シテ深甚
ナル考慮ヲ願ヒタイ、工業教育ハ一方ニ於テ
實業學理教育デアアルシ、宗教ハ宗教デ別ノ道
ヲ執ルト云フヤウニ、個々テン／＼バラ／＼
ニ教育シテ置イテ、放ツタラカシテ置クト
云フコトハ非常ナル誤デアリマシテ、私ハ今日
ノヤウナ思想ノ動搖期ニ於テ、工業教育、科
學教育ガ盛ニ行ハレル時代ニ於テ、宗教ト科

學ノ綜合統制ニ關シテハ、文政當局ハ深甚
ナル考慮ヲサレル必要ガアルト思ヒマス、
此ノ點ノ希望ヲ述ベテ置キマス
最後ニモウ一ツ私ノ希望ハ、戰爭ト宗教ト
云フコトデアリマス、戰爭ト云フモノハ國
民ヲシテ生死ノ關頭ニ立タシムルモノデア
リマシテ、國民ニ一種ノ宗教的體驗ヲ與ヘ
ル大ナル「チャンス」デアリマス、此ノコト
ハ日露戰爭ノ體驗ノアラレル荒本文部大臣
ハ既ニ御經驗ノコトト思ヒマスガ、私自身
モ一昨年事變始ツテ以來、上海派遣軍ニ半年
從軍致シマシテ、砲煙彈雨ノ裡ニ居リマシ
テ、私ノ如キ宗教心ニ淺イ者デモ、深刻ナ
ル宗教ノ經驗ヲ味ツタノデアリマス、今日
既ニ百萬ヲ超エル所ノ皇軍ノ大軍ガ、大陸
ニ於テ生死ノ境ニ戰ヒツツアル、彼等將兵ガ
戰爭ヲ通ジテ深刻ナル宗教上ノ體驗ヲ得タ
デアラウト云フコトハ、推察スルニ餘アル、
既ニ宗教的觀念ヲ以テ、軍人ハ此ノ戰爭ヲ
通ジテ宗教的信念ヲ強化スルデアリマセウ
シ、又今度ノ戰爭ニ於テ初メテ宗教的信念
ヲ得タ軍人モアルデセウ、或ハ又宗教的信
念ヲ獲得スル一步手前ノ、宗教的感情ヲ體
驗シタ者モアルデアリマセウ、是等ノ軍人
ノ貴イ經驗ヲ活力サナケレバナラス、之ヲ
放ツタラカシテ置イテハイケナイ、戰爭ノ

與ヘル宗教の經驗ヲ十分活カスト云フコト
ガ、將來ノ國民ノ宗教の情操ヲ向上スル上
ニ於テ極メテ必要ナコトデアラウ、デアリ
マスカラ此ノ點ニ關シマシテ、戰爭ト宗教
ノ關係ニ付テ文政當局ニ於テハ十分ナル調
査研究ヲサレテ、今次ノ事變ニ關シテ國民
ノ宗教心發達ノ爲ニ大イニ御努力アラシ
コトヲ切ニ希望スルノデアリマス、以上所見
ヲ陳述致シマシテ本案ニ賛成スル次第デア
リマス

○安藤委員長 鈴木君

○鈴木委員 私立社會大衆黨ヲ代表致シマ
シテ本案ニ賛成ノ意ヲ表明致スモノデアリ
マス、尙ホ各派ノ協調ニ依ツテ提出致シマ
シタル三ツノ希望條項ヲ付シテ之ニ賛成ス
ルモノデアリマス、本案實施ニ當リマシテ
ハ、申スマデモナク公平嚴正ヲ旨ト致シマ
シテ、天下ノ人心ヲ鼓舞作興シ、宗教家ヲ
シテ感奮興起、勇躍シテ其ノ任ニ赴カシメ、
宗教ノ大活躍ヲ希望スルモノデアリマス、
終ニ臨ミマシテ本案ノ如キ微妙ニシテ複雑
ナル、且ツ歴史ノ永イ問題ヲ要約致シマシ
テ、本案ノ如キ簡潔ナル文章ノ中ニ御纏メ
ニナリマシタ文部大臣竝ニ文部當局ノ勞苦
ヲ深く多トシ感謝スルモノデアリマス、ソ
レト同時ニ本案ノ委員長ハ、非常ニ長イ時

間掛リマシテ、色々ナ議論ガアツタニ拘ラ
ズ、寛容ト忍耐トヲ以テ最後マデ持續セラ
レマシテ、遂ニ本案ノ成立ヲ見ルニ至ツタ
ト云フコトニ對シマシテ、又深ク其ノ勞ヲ
多トスル次第デアリマス

○安藤委員長 椎尾君

○椎尾委員 第二控室ヲ代表シマシテ本案
ニ賛成ヲシ、竝ニ各派共同ノ三ツノ希望條
項ノ徹底シマスヤウニ希望ヲシテ、贊意ヲ表
スルモノデアリマス、宗教法ハ明治三十二
年以來屢、問題ニナリマシテ、漸ク此ノ時局
重大ノ時ニ、當局ノ御努力ヲ基トシテ本案
ノ成立ヲシマスルコトニ、深甚ノ感謝ヲ表
スルノデアリマスルガ、其ノ第一ノ希望條
項ニ關シマシテハ、一ハ事變ノ勃發以來、教
化關係ノ人々ハソレノ方法ヲ講ジテ居
ルヤウデアリマスガ、例ヘバ佛教ニアリマ
シテハ佛教聯合會ガアリマスガ、此ノ聯
合會ハ直チニ支那ノ回教ニハ協力ヲシテ居
リマセヌ、隨テ支那ノ回教ニ協力シマスル
モノダケガ特別ナル聯合團體ヲ作ツテ、其ノ
實行ヲ進メタイトノ計畫ニ對シマシテ、固
ヨリ當局ハ相當ノ監督指導ヲシテ居ラルル
ト思ヒマスケレドモ、聯合會全面ノ活動ヲ
要求セラルルコトニ依ツテ行詰ツテ居ル
ヤニ聞クノデアリマスガ、サウ云フコトノア

リマセヌヤウニ、形式ニ泥マナイデ實動ヲ
十分ニ監督指導サレマシテ、有效ニ活潑ニ
時局ニ對シテ働キマスヤウニ指導アラシ
コトヲ願フノデアリマス、國內ニ於キマシテ
ハ宗教各派ノ教師等ヲ動員シマシテ、精神
總動員ノ上ニモツト活躍セシメラルル途ア
リト感ズルモノデアリマス、是モ管長其ノ
他ニ對シテ御獎勵ニナツテ居ルコトハ承知
致シテ居リマスガ、ヤハリ國家ガ積極的ニ
多少ノ財ヲ與ヘ、途ヲ與ヘ、指導ナサレマ
スレバ、モツト十分ナル活躍ガ出來ルト存
ズルノデアリマス、固ヨリ財ニ於テハ各教
派ガ内部的ニモ十分ニ爲シテ居ルト思ヒマ
スケレドモ、極メテ少額デモ國家ガ與ヘ
テ、而シテ監督指導セラレマスレバ、モツ
ト有效ナモノデアルト存ジマスガ、從來ハ
何等與フルナクシテ、唯掛聲バカリデアツ
テ、其ノ效果ヲ學ゲマセヌ爲ニ、其ノ點ニ
付テハ今後ハ積極的ニ行ハルコトト期待
スルノデアリマス、又途ト申シマシタノハ、
單ニ國民精神ノ總括的ノ指導ノミナラズシ
テ、此ノ時局ニ對應シマスル實際ノ指導内
容ヲ正確ニ、有效ニ指示セラレマスルヤウ
ニ、是ハ何レ再教育等ノ形式ヲ以テ行ハレ
ルコトト存ジマスルガ、之ヲ實行セラルル
コトヲ希望スルノデアリマス、其ノ方法整

ヒマスレバ、内外ニ時局ニ對シテ相當ノ活
動ヲシ得ルモノト思フノデアリマスカラ、
會々本法ノ成立ヲ境ト致シマシテ、當局ニ於
キマシテハ此ノ希望ヲ十分ニ實現セラレル
ヤウニ御努力ヲ御願致シマス

他ノ二ツノ希望ハ、本法ヲ以テマシテ將
來恆久的ニ徹底スルコトヲ希望スルモノデ
アリマシテ、前ニ立川委員カラノ御話ノア
リマスル通り、宗教ハ必ズシモ保護ニ依ツ
テ伸ビルモノデハナクシテ、壓迫ニ依ツテ
伸ビルコトノ強イモノデアリマスルガ、併
シナガラ平凡ナル一般の發達ハ、ヤハリ
相當ノ監督、保護、指導ニ依ツテ伸ビル譯
デアリマス、就キマシテハ此ノ教師ノ資格
ヲ向上セシムル爲ニハ、再三申上ゲマシタ
ヤウニ、國家ガ宗教ノ教師トシテ斯ノ如キ
者ヲ要求スルト云フ、其ノ模範的ナ者ヲ養
成スル何等カノ機關ヲ一ツ建テラレマスレ
バ、自然之ニ近ヅイテ來ルノデアリマシテ、
國家ガ自ラサウ云フコトヲ致シマセズニ高
メルコトハ困難デアルバカリデナク、自然
彼等ヲ批判シ、指導セラレマスル上ニモ、
唯主觀的ノ偏見ニ陥ル虞ガアリマスカラ、
國家ガ實際ニ其ノ經營方策ヲ考慮セラレマ
スルヤウニ、豫テ大臣ノ御考慮ヲ得ルト云
フコトデアツタ其ノ點ニ對シテ、一層ノ御

考慮ヲ得マシテ、國家自ラ進ンデ此ノ宗教教師ノ資格向上ノ爲ニハ、實際的ノ指導ヲ與ヘルコトニ御盡力ヲ願ヒタイノデアリマス、サウシテ之ヲ標準トシテ各教派ニ向ツテ嚴重ナル監督指導ヲ加ヘラルコトヲ願フノデアリマス、又經濟方面ニ付キマシテハ、一面ニハ非常ナ貧弱ナル經濟ニ依ツテ、相當善良ナル效果ヲ與ヘテ居ルモノモアリマスルガ、又間々宗教ヲ名トシテ財ヲ私シテ、是ガ迷信邪教ノ興隆ノ源トナツテ、正シイ宗教發達ヲ阻碍シテ居ルノデアリマス、本法ノ施行ニ依リマシテ動産、不動産ヲ確實ニ保護セラレマスト共ニ、其ノ果實、及ビ宗教ノ名ニ依ツテ集リマスル財物ヲ宗教以外ノ事ニ用ヒナイヤウニ、又宗教ニシテモ正シイ發達ノ爲ニ用ヒルヤウニ御指導ニナリマスルコトハ、此ノ法ガ行ハレナカツタ今マデノ慣習ニノミ泥ミマスルト、折角ノ立法ガ其ノ效果ヲ失フコトト存ジマスルカラ、此ノ立法ヲ境ト致シマシテ、嚴重ニ財物ノ宗教的ニ用ヒラレ行ハレマスルヤウニ、監督指導ヲ與ヘラレタイノデアリマス、尙ホ一言附ケ加ヘテ置キタイコトハ、本法ノ施行ニ依リマシテ、結社並ニ教會ガ新ニ合法的ニ成立スル譯デアリマスガ、是ハ信教ノ自由デハアリマスルガ、併シ是ガ爲

ニ從來全ク類似宗教、淫祠邪教トシテ非難セラルルモノガ、非難サルルコトナク横行闊歩スルヤウニナツテハ相成ラヌノデアリマシテ、其ノ點ニ付テ一方ニ於テ公平ニ、善意ニ進歩シテ參リマスルモノヲ素直ニ受け容レマスルト共ニ、他方ニ於テ迷信邪教ガ之ヲ機トシテ勃興致シマセヌヤウニ善處セラルルト云フコトハ、頗ル困難ナコトデアリマシテ、恐ラク名ノ正シキニ引入レラレテ實ヲ失フコトニナルデアラウト云フ憂大ナルモノガアルノデアリマス、今日マデ宗教制度調査委員會等ニ於テ努力サレマシタ以上、是カラノ宗教ノ動キヲ正シク進メテ行クト云フコトハ、餘程困難ナモノト存ジマスルカラ、其ノ調査會等ノ制度モ正シクセラレマシテ、確實ニ新ニ興ル正シキモノヲ妨ゲズ、同時ニ邪マナルモノノ横行ヲシマセヌヤウニ、嚴重ナル監督、啓發ヲ與ヘラレマスルヤウニ希望スル次第デアリマス、此ノ希望ニ附シテ贊意ヲ表スル者デアリマス

○安藤委員長 三田村君

○三田村委員 我ハ東方會ヲ代表致シマシ

テ本案ニ贊成ノ意ヲ表シマス、併セテ各派共同ノ三ツノ希望條件ニ贊意ヲ表シマスガ、更ニ一言希望意見ヲ述べタイト思ヒマス、

其ノ第一點ハ、宗教行爲ガ世道人心ニ及ボス影響ノ至大ナル點ニ鑑ミマシテ、此ノ宗教行政上劃期的ナ立法ヲ機會トシテ、宗教活動ガ國家ノ目的ト合致スルヤウニ、今後大イニ積極的ナ指導監督ヲ希望スルモノデアリマス、其ノ第二點ハ、本法ニ依ツテ規制サレマス宗教ハ、之ニ依ツテ監督助成ガ行ハレマスガ、ソレ以外ノ所謂似テ非ナル宗教、原チ淫祠邪教ノ如キモノガ續發スル傾向ガ最近非常ニ顯著デアリマスガ、是ハ一ツノ混沌タル社會相ノ反映デアリマス、隨テ此ノ點ニモ十分御留意アリマシテ、宗教ヲ一ツノ國家行政ノ内ニ包容スル見地カラ、其ノ所謂似テ非ナル宗教活動ニ對シテモ、十分ナル取締ト指導ヲ行ハレンコトヲ切望スルノデアリマス、以上簡單ニ希望ヲ述べマシテ贊成ノ意思ヲ表シマス

○安藤委員長 加藤君カラ、希望條項ニ付

キマシテ特ニ簡單ナ發言ヲ要求セラレテ居リマス、極メテ簡單ニ此ノ際發言ヲ許可致シマス

○加藤委員 我ハ此ノ宗教團體法案ニ付テ

全然贊意ヲ表スルモノデアリマスガ、併シ只今希望條項ヲ三點御舉ゲニナリマシタ、其ノ中ノ第三番目ニ「宗教ノ名ノ下ニ於ケル營利ヲ目的トスル行爲」云々ト云フコトガア

リマスガ、之ニ付テ少シ意見ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、宗教ノ名ノ下ニ爲シタル利益行爲デアリマシテモ、之ニ依ツテ得タル利益ヲ社會ノ爲ニ、國家ノ爲ニ、乃至布教傳道ノ爲ニ投ズルトシマスルナラバ、是レ必ズシモ私ハ咎ムベキコトデハナカラウト思フノデアリマス、吾々共ノ最も排斥セント欲スルモノハ、宗教ノ名ノ下ニ於テ不正行爲ヲ爲ス其ノ事柄アルノデアリマス、此ノ點ニ於テ十分文部當局カラ御監督ヲ願ハナケレバナラスト思フノデアリマス、不正行爲ノ中ニモ、必ズシモ利益目的ノ行爲バカリデハナクテ、他ニモ最も憎ムベキ行爲ガアルト思フノデアリマス、カ

〔「必要ナシ」ト呼フ者アリ〕

○安藤委員長 一寸加藤君ニ御相談シマス

ガ、アナタノ御意見ヘ能ク分リマシタ、サウ云フ解釋ヲ以テ、含マシテ、先程各派代表カラ御陳述ニナリマシタ希望條項ニ合致セラレンコトヲ希望致シマス

○加藤委員 我ガ只今申述べマシタ意味ヲ

含ンデノ利益行爲ト云フコトデアリマスレ

バ、別ニ異議ハアリマセス、私ノ申シマス
ヤウニ希望條項ノ文面ヲ改メラレンコトヲ
切ニ希望致シマシテ……

○安藤委員長 ソレデハ分リマシタ、加藤
君ノ御意見ハ能ク分リマシタ、其ノ意味ハ
包含ヲ致シテ居ルノデアリマス——是ヨリ
採決致シマス、本案ニ對スル各派代表ノ御
意見ハ總テ一致デアリマス、即チ三箇ノ希
望條件ヲ附シマシテ貴族院ヨリ修正送付セ
ラレタル宗教團體法案ヲ可決スルコトニ御
異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○安藤委員長 満場一致御賛成デアリマス
(拍手) 本案ハ可決致シマシタ

○安藤委員長 續イテ寺院等ニ無償ニテ貸
付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ノ
審議ヲ繼續致シマス、質問ノ續キデアリマ
スガ、高見君ハマダ質問ガ半バデシタカ
○高見委員 大體私ノ希望ヲ附シタ質疑ヲ
大藏當局及ビ文部省ノ御方々ニ申上ゲマシ
タル所、能ク私ノ趣意ヲ了解サレタヤウデ
アリマシテ、其ノヤウニ答辯ガアリマシタ
カラ、私ハ是デ大體質疑ヲ打切ルノデアリ
マス、唯文部當局ニ能ク申上ゲタイコトハ、
宗教界ト云フモノハ斷ジテ腐敗シテ居ラス
ノデアル、日本民族全體ガ腐敗シテ居ラス

ヤウニ、宗教界モ斷ジテ腐敗シテ居ラス、又
既ニ吾々ハ會テ禪宗ニ十四五年居ルガ、彼
等ハ一分一秒ノ差モナク修行ヲヤツテ居ル、
彼等ハ十五年二十年ヲ一炊ノ夢ノヤウニ考
ヘテ居ル、數百年ノ延長デアリ、數千年ノ
將來モ皆サウ云フヤウニ考ヘテ居ル、サウ
云フヤウニ全國ノ宗教界ト云フモノハ考ヘ
テ居ル、有ユル宗派ト云フモノハ惡イ所モ
アルガ、腐敗ハシテ居ラス、十分ニ宗教ト
云フモノヲ尊重シテ、修行修道ト云フ所ヘ
十分ナ著目ヲシテ財産ノ處理ヲヤツテ貫ヒ
タイト云フコトヲ、更ニ私ハ繰返シテ御願
シテ置クノデアル

○安藤委員長 ソレデハ次ニ發言通告順ニ
依リマシテ加藤知正君ノ質疑ヲ許シマ
ス——加藤君

○加藤委員 私ハ總理大臣、文部大臣、司
法大臣ノ御臨席ヲ要求シテ置キマシタガ、
文部大臣ハ御在デスケレドモ、他ノ大臣
ハ如何デゴザイマセウ

○安藤委員長 文部大臣ガ出席デゴザイマ
スカラ、文部大臣ニ質問シテ下サイ

○加藤委員 ソレデハ是ヨリ質問ヲ致シマ
スガ、第一點トシテハ、寺院ノ國有境内地
ハ私有ナリ、政府ハ之ヲ公領關係ナリト言
フモノハ誤リナリト認ム、政府ハ責任ヲ以

テ公領關係ナリト稱スル其ノ根據即チ確證
ヲ提示サレタイ、ソコデ私ガ之ヲ私有ト稱
スルノハ、元來寺院ノ境内地ハ王朝時代ヨ
リ、制札又ハ下知狀ヲ以テ、一般寺領ニ對
スル租稅收納權ト共ニ境内山林ノ租稅ヲ免
除スルト同時ニ、其ノ寺院ノ所有權ヲ確保
セラレタルモノデアリマス、即チ是ハ昔時
高僧ガ或ハ深山幽谷ノ靈地ヲ相シ、之ヲ開
拓シテ寺院ヲ創設シ、或ハ王侯ノ下附、士
民ノ寄附ニ依リ、或ハ買得ニ依リ、其ノ境
内地ニ對スル所有權ヲ完全ニ收得シ來リタ
ルモノデアツテ、一般士民ガ、其ノ邸宅敷地
ヲ所有スルト毫モ選ブ所ガナイノデアリマ
ス、然ルニ政府ハ明治四年正月五日太政官布
告ヲ發シ、「諸國社寺由緒ノ有無ニ不拘朱印
地、除地等、從前之通被下置候處、各藩版籍
奉還之末、社寺ノミ土地、人民私有ノ姿ニ相
成、不相當ノ事ニ付、今度社寺領地現在ノ境
内地ヲ除クノ外、一般土地被仰付云々」ト稱
シテ、其ノ當時ノ現在ノ境内地ヲ除クノ外、一
般即チ朱印地、黑印地ノ土地ヲ爲サシメタノデ
アリマス、然ル所政府ハ明治八年ニ至リ、地租
改正局達明治八年乙第四號ヲ發シ、「社寺
境内外區別取調ノ義ニ付明治七年内務省乙
第七十一號達ノ趣モ有之候處今般本局被開
一致地租改正ニ際シ土地ノ名稱ヲ區別シ所

有ヲ定メ候ニ就テハ右境内外ノ區別判然不
致テハ諸般差支候條別紙規則ニ照準至急取
調差出スベシ、社寺境内ノ義ハ、祭典法要ニ
必要ノ場所ヲ區劃シ更ニ新境内地ト定メ其餘
悉皆上地ノ積リ可取調事」トシテ、即チ明治
四年ノ太政官布告ヲ以テ現在ノ境内地ヲ除
クノ外一般上地ヲサセ置キナガラ、間モナ
ク明治八年ニ、其ノ境内地ノ内ニ、更ニ祭
典法要ニ必需ノ場所ヲ區劃シテ之ヲ新境
内ト定メテ、其ノ餘ヲ悉皆上地セシメダノ
デアツテ、是ハ實ニ苛酷ナル、赤ノ政府ニ
モ等シイ制限ヲ加ヘテノ上地官沒デアツテ、
之ガ爲メ寺院境内山林反別二萬餘町歩及ビ
現在宅地ニ屬スルモノ約二萬坪ヲ官沒シ
タノデアル、其ノ面積ハ實ニ現在ノ寺院境
内地ノ約二倍ノ廣大ナルモノヲ上地官沒シタ
ノデ、寺院ハ大打撃ヲ蒙ツタノデアル、其
ノ上寄附又ハ買入、又ハ開墾ノ證據ナキ故
ヲ以テ、官有地第四種ニ編入セラレタモノ
ガ二千九百萬餘坪デアルガ、此ノ二千九百
萬餘坪ダケガ漸ク寺院境内地ト決定セラレ
テ、ソレダケガ現在寺院ノ國有境内地トシ
テ殘ツテ今日ニ及ンデ居ルモノヲ、ソレヲ
今回處分シヨウトスルノデアリマス、併シ
ナガラ明治四年太政官布告デハ、當時ノ境
内地ニ私有地ト認メテ居タカラ、其ノ當時

現在ノ境内地ヲ除キテ、其ノ他部分即チ朱印地、黒印地ヲ上地セシメテ置キナガラ、更ニ、明治八年ニハ其ノ私有地ト認メテ上地シナカツタ境内地ノ内ニ於テ、祭典法要ニ必需ノ場所ヲ區劃シ、更ニ新境内地ト定メテ其ノ餘ヲ悉ク皆上地セシメタノデアリマスガ、其ノ上地シタ部分ハ明治四年ニハ最初ヨリ寺院所有ノ境内地トシテ殘サレテ居タ地域ヲ上地セシメタモノデアラカラ、ソレガ寺院ノ私有地デアルコトハ自明ノ理デアルト言ハネバナリマセヌ、所ガ政府ハ斯クノ如ク寺院ノ私有地ヲ上地セシメタノハ不當デアツタト氣付イテ、明治十一年五月、内務省乙第十一號ヲ發シテ之ガ下渡方ヲ達示シタノデアリマス、其ノ達ニハ、「官國幣社、式社及文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺竝公園地、區劃中ノ社寺ヲ除クノ外、官有地ニ在ル社寺ニシテ、境内外區劃決定ノ分ニ限リ該社寺ニ於テ請願候ハバ無代價下渡、民有地第一種ニ組替、其ノ旨時々可届出、此ノ旨相達候事」トアリ、是ハ官有地ニ在ル社寺ニシテ、境内、境外ノ區劃決定ノ分ニ限リ、該社寺ニシテ請願スレバ無代價ニテ下渡シ、官有地第四種カラ、民有地第一種ニ組替ヘヲスルカラ、其ノ旨時々届出ツベシト云フノデアツテ、之ヲ以テ見

ルモ、政府ガ明治四年ノ太政官布告ト明治八年ノ地租改正局達トヲ以テ、寺院ノ境内地ヲ二度ニ互ツテ上地沒收シ、官有地ニシテシマツタコトハ、確ニ不當ノ暴舉デアツタコトガ分ルノデアリマス、若シ之ガ不當デナイト云フナラバ、然ラバ明治十一年五月内務省乙第十一號達ハ何ノ爲ニ出シタノデアラカ、サウ云フ達ヲ態、出シテ、官有地トナツタ社寺ノ境内地ヲ無代價下渡ス必要ナドハ全クナイ筈デハナイカ、斯ノ如キ經過ヨリ見デモ、寺院ノ境内地ハ私有地デアルコトガ認メラレルノデアル、況ンヤ明治三十九年以來、明治四十四年ニ互リ、三十餘箇寺ノ國有境内地及ビ國有林ノ下戻請求ノ訴ニ對シテ、行政裁判所ハ之ヲ私有地ナリト認メテ悉ク之ヲ下戻サセタノヲ見デモ、寺院ノ國有境内地ガ私有地ナルコトヲ認ムベキデハナイカ、茲ニ、右行政裁判所ノ判決ノ中、主ナルモノニツツ提出シテ、政府當局ノ參考ニ供シタイト思ヒマス

其ノ一ツハ原告栃木縣芳賀郡益子町西明寺ノ明治三十七年第四百七十二號ノ訴ニ對スル、明治四十三年二月二十八日ノ判決デアツテ、他ノ一ツハ、東京市淺草區淺草公園淺草寺ノ明治四十三年第二百九十四號ノ訴ニ對スル明治四十四年五月二十六日ノ判決デアリマス、西明寺ノ方ハ内務大臣ガ被告デアツテ、淺草寺ノ方ハ農商務大臣ガ被告トナツテ居リマス、而シテ先ヅ西明寺ノ訴ニ對スル判決文ノ要旨ハ、「一、明治四年正月五日附ノ布告ハ其當時社寺ノ境内タル土地ハ祭典法要等ニ必要ナラザリシ部分ト雖モ他ノ公領地ト其性質ヲ同ウセザルコトヲ認メ上地スルヲ要セザル旨趣ナリトス、一、社寺ト其境内地トノ關係ハ必ズシモ公領關係ノミニ止マリシモノニアラズ、一、朱印狀ニ於ケル各種ノ文言ハ孰レモ其時代ノ必要ニ依リテ變遷シ各特別ノ意義ヲ有スルモノトス、一、舊時ノ爲政者ハ社寺領ヲ與奪シ之ニ租稅ヲ賦課シ又ハ減免スル權利ヲ有シタルモノトス從テ社寺領ニ對シテハ其性質上租稅ヲ賦課シ得ベキモノニアラズト云フヲ得ズ、一、境内除地トハ社寺境内ニシテ其貢租ヲ免除セラレタル土地ヲ指稱ス」是ガ西明寺ニ對スル判決ノ要旨デアリマス、淺草寺ニ對スル判決ノ要旨ハ、モウ少シ強イ所ガアリマス、此ノ西明寺及ビ淺草寺ニ對スル行政裁判所ノ判決ハ、數万ノ寺院ノ國有境内地ヲ私有ナリト認ムル頗ル有力ナル資料ナリト確信スルノデアリマス、私ハ茲ニ其ノ判決ヲ一々朗讀致シタイノデアリマスケレドモ、時間モアリマセヌカラ、

委員長ニ御願シテ速記録ニ全文ヲ掲載シテ、當局御覽ヲ願ヒタイノデアリマス
私ハ此ノ確定シタル行政裁判所ノ判決ハ動カスベカラザルモノト思フノデアルガ、之ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、先般本會議ニ於テ私ニ答ヘラレタ政府委員ノ答辯ハ、此ノ寺院ノ境内地ヲ公領關係ト言ハレテ居ルノデアリマス、所ガサウ云フヤウナ公領關係ノ故ヲ以テ此ノ判決ヲ覆サウト云フコトハ、到底私ハ出來ルモノデハナイト思フノデアリマス、併シナガラ公領關係デアルガ故ニト云フコトデアリマス、ソレハ此ノ判決ニ反對ノ意見デアルバカリデナク、此ノ寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案其ノモノノ立法ハ、此ノ裁判ヲ破壞スルコトニナリハシナイカ、是レ實ニ重大問題デアラカラ、之ニ對シテハ文部大臣、司法大臣及ビ特ニ内閣總理大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマスガ、殘念ナガラ此處ニハ文部大臣御一人御臨席デアリマシテ、其ノ他ノ大臣ハ御臨席ゴザイマセヌカラ、ドウゾ私ノ質問ノ趣旨ヲ能ク各大臣ニ御傳ヘ下サイマシテ、速ニ之ニ對スル適切ナ御答辯ヲ御與ヘアランコトヲ切望致シマス
尙ホ私ハ政府ニ伺ツテ置キタイコトガア

リマス、ソレハ前ニ舉ゲタ所ノ明治十一年五月内務省乙第四十一號ノ達ニ就テデアリマス、此ノ達シニハ「其ノ旨時々届ケ出ヅ可シ此ノ旨相達候事」トアリマシテ、即チ届出ノ期限ガ規定シテナイ、届出ノ期限ガ何年何月マデト明示シテナイノデアリマス、仍テ是ハ何時ニテモ届出サヘスレバ無代下渡ヲスルト云フ意味ノコトデアルト解釋スルノガ本當デアルト思フノデアルガ、政府ノ所見ハ如何カ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、之ニ對シテハ或ハ政府當局ニ於テハ、ソレハ明治二十二年六月十二日、勅令第十四號ヲ以テ物品會計規則ナルモノガ制定サレタカラ、此ノ明治十一年五月内務省達乙第四十一號ハ其ノ效力ヲ失ツタモノデアルト申サルカモ知レナイガ、併シナガラ左様ナ事ハ何ヲ根據トシテ申サルノデアルカ、ソレハ單ニ政府委員ノ解釋ニ過ギナイコトデナイカ、私ハ此ノ明治十一年五月内務省乙第四十一號ハ、現在モ尙ホ效力ヲ有スルモノデアルト考ヘルガ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル御所見ヲ有セラルルノデアリマスカ

次ニ尙ホ政府ニ伺ヒタイコトハ、太政官布告ハ法律ト同ジ效力ヲ有スルモノデアルト信ズルガ、政府ノ所見ハ如何デアリマセ

ウカ、私ハ太政官布告ハ法律ニ同ジ效力ヲ有スルモノナリト確信スル者デアアル、故ニ明治四年正月五日附太政官布告第四號ハ法律ト同様ノ效力ヲ有スルモノト思フガ、其ノ太政官布告ハ現在ハドウナツテ居ルカ、即チ現在モ生キテ居ルカ、若シ廢止サレテ居ルナラバ、ソレハ何時如何ナル理由、又如何ナル事情ニ依ツテ廢止サレタモノデアアルカ之ヲ此ノ場合伺ヒタイト思フノデアリマス

○江口政府委員 只今ノ加藤サンノ御尋ニ對シマシテ私カラ御答ヲ致シタイト思ヒマス、只今加藤サンカラ續々御述ニナリマシタ寺院境内ノ沿革ニ付キマシテハ、大體加藤サンノ御述ニナラテ通りデアリマスガ、ソレニ對スル意見ト申シマスカ、或ハ結論ニ付キマシテハ、私達ノ考ヘテ居リマス所ハ相當違ツテ居ル所ガアルノデアリマス、明治初年ニ太政官布告ニ依リマシテ寺領ハ公領地デアルト云フ觀念ヲ以テ、境内地ヲ除イテ上地セシメタコトハ加藤サンノ仰シヤツタ通りデアリマスガ、其ノ寺領ハ公領ナリト云フ考ガ間違ツテ居ル、寺領ハ公領デハナクテ私有地デアルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、是ハ寺領ノ沿革性質等ヲ研究シテ見マスト、學者ノ説ニモ色々アリ

マスガ、明治以前徳川時代ニ於キマシテハ、寺院ハ其ノ寺領ニ對シテ租税ノ徵收其ノ他ノ行政事務ヲ行ツテ居リマシテ、ヤハリ大名ノ領地ト同ジヤウナ意味デ公領關係タト云フ說モアルノデアリマス、政府ガサウ云フ說ヲ採用シテ公領關係トシタト云フコトハ、其ノ當時トシテ必ズシモ間違デナカツタデヤナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス、恰度大名ノ領地ヲ取上ゲマシタト同ジヤウナ意味デ、御寺ノ領地ヲ取上ゲタノデヤナイカト考ヘテ居リマス、ソレカラ上地致シマス場合ニ境内地ト境外地ト區別致シマシテ、境内地上地モシナカツタノデアリマス、其ノ儘占有ヲ許シテ居ツタノデアリマスガ、明治八年地租改正ヲ行ヒマス時ニ、ドウシテモ官有地ト民有地ト區別スル必要ガアリマシテ、ソレデ加藤サンガ仰セラレマシタヤウニ、信者カラ寄附ヲ受ケタ所、寺院ガ買収シタ所、或ハ寺院ガ自ら荒蕪地ヲ開墾シタ所トカ、サウ云フモノニ付キマシテハ民有ノ證據ノアルモノトシテ、民有地ニナツテ居リマス、併シナガラ全然サウ云フ民有ノ證據ノナイ土地ハ、官有地ニ編入シタノデアリマス、是ハ地租改正ノ事務ノ取扱上サウヤツタノデアリマス、是ハ寺院ノ境内地ニ限りマセズ、一般個人ノ占有シテ居ル土地

デアリマシテモ、其ノ所有ノ事實ガナイモノハ官有地ニ編入サレタ次第デアリマス、御承知ノ通り東北地方ノ山林ナドハ大部分國有地ニ編入サレタノデアリマス、是ハ寺院ノ境内地ダケニ限ツタ問題デハナイノデアリマス、地租改正ニ當リマシテ、官民有ノ區分ヲスル場合ニ、民有ノ證據ノナイモノハ官有ニシタト云フ譯デアリマス、サウシテ官民有ノ區分ガ一應決ツタノデアリマスケレドモ、又加藤サンガ仰セラレタヤウニ、民有ノ證據ガアルモノヲ官有ニ編入シタト云フ疑ガアリマシタカラ、御承知ノ通り明治三十二年ニ國有土地森林下戻法ト云フ法律ガ出來マシテ、若シ民有地デ官有地ニ編入サレテ居ルモノ、或ハ上地處分ヲ命ゼラレタモノガアツタナラバ、此ノ際下戻ノ申請ヲスレバ下戻シテヤルコトニナリマシタ、ソレデ其ノ申請期限ハ明治三十二年六月マデトナツテ居リマス、其ノ期限マデニ下戻ノ申請ヲ致シマシタモノガ相當アリマシタ、是ハ寺院ニ限ラズ、一般國民ニ於キマシテモ下戻ノ申請ヲシテ許可ニナツタモノモアリマセウ、又寺院等ニ於キマシテ下戻ノ申請ヲシテ、或ルモノハ許可ニナリ、或ルモノハ許可ニナラナカツタ、許可ニナラナカツタモノハ、行政裁判所ニ訴ヘタノデ

アリマス、行政裁判所デハ、初メハ寺院境内地ハ公領關係デアル、殊ニ御朱印地ノヤウナモノハ公領關係デアルカラ、下戻シ得ルモノデハナイト云フ判決デアリマシタ、所ガ其ノ後明治四十三年ニ至リマシテ、御朱印地等ニ於キマシテハ租税ノ免稅ヲサレテ居ルノデアルカラ、若シ此ノ租税ノ免除ガナカツタナラバ、當然租税ヲ負擔スベキ土地デアル、隨テ是ハ寺院ノ所有地デアルト云フ趣旨ノ判決ヲ出シタノデアリマス、是ハ加藤サンノ御述ニナツタ通りデアリマス、其ノ結果行政裁判所ノ判決ニ於キマシテ、オ寺ノ寺有地ニナツタ土地モ相當アルノデゴザイマス、サウシテ行政裁判所ノ判決ノアリマシタモノニ付キマシテハ、其ノ判決通り下戻ヲ致シタノデアリマスガ、行政裁判所ノ判決ノナイモノ、或ハ下戻ノ申請ヲシナイモノニ付キマシテハ、依然明治八年ノ官民有地區分ニ依リマシテ、官有地ニ編入セラレタ儘ニナツテ居ツタノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ、今トナリマシテハ下戻ノ申請ヲスル譯ニモ行キマセヌ、大正十年ニ國有財産法ガ規定サレマシテ、斯ウ云フ寺院ノ境内地ニ付キマシテハソレヲ國有ト認メマシタ、國有デハアルガ、寺院ガ其ノ用ニ供シテ居ル間ハ無償

ニテ貸付ケタモノト看做スト云フ規定ニナツテ居リマス、ソレガ今ノ現行法デアリマス、ソレデ現在ノ寺院ノ境内地ガ國有デアルコトハ、法律上カラ申シマシテモ、全然疑フ餘地ガナイト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ明治十一年ノ内務省達ニ依リマシテ、或ル特定ノ寺院境内地ハ無償ニテ下戻スト云フ達ガ出テ居ルデハナイカ、是ハ從來上地處分竝ニ官民有區分ノ間違ツテ居ルコトヲ證明シテ居ルノデハナイカト云フ御話デアリマシタ、私共ノ考ヘル所デハ、必ズシモ從來ノ處分ガ間違ツテ居ルカラ、内務省ガ斯ウ云フ達ヲ出シタトハ考ヘテ居リマセヌ、併シナガラ丁度此ノタビノ法律案ト同ジ趣旨ニ於キマシテ、寺院等ヲ保護シ、宗教教化ヲ全カラシムルト云フ趣旨デ、斯ウ云フ達ガ出タモノト考ヘマス、併シナガラ此ノ達ニ含マレテ居ル寺院ハ全部ノ寺院デハアリマセヌノデ、今御讀上ゲニナリマシタ通り、或ル特定ノ寺院ダケニ對シテサウ云フコトヲスルコトニナツテ居リマス、此ノ達ニ基イテ無償拂下ノ申請ヲシタモノハ、民有地ニナツタ譯デアリマス、此ノ達ハマダ生キテ居ルカト云フ御話デアリマスガ、之ニ付テハ加藤サンモ御觸レニナリマシタケレドモ、其ノ後明治二十二年ニ國有財産

管理規則ガ出來マシテ、此ノ達ハ自然效力ヲ失ツテ居ルモノト解釋シテ居リマス、別ニ此ノ國有財産管理規則ニサウ云フ明文ハアリマセヌケレドモ、同一事項ニ付キマシテ新ナル法令ガ出來マシタ場合ニハ、舊來ノ法令ハ效力ヲ失フコトハ當然ノコトデハナイカト考ヘマス、隨テ明治十一年ノ内務省達ハ、今ハ效力ガナイト解釋致シテ居リマス、次ニ行政裁判所ノ判決ヲ二ツバカリ御舉ゲニナリマシテ、行政裁判所ノ判決ガアル以上、政府トシテハ此ノ判決ニ從ハナイカト云フ御話デアリマス、判決ノアリマシタモノニ付キマシテハ、其ノ判決通り實行サレテ居リマシテ、ソレニ對シテ政府トシテ異議ヲ申込ムコトノ出來ナイコトハ當然デアリマス、併シナガラ行政裁判所ノ判決ノ趣旨ニ、政府ハ必ズシモ從フ必要ハナイト考ヘテ居リマス、或ル特定ノ事件ニ付キマシテ、行政裁判所ノ判決ガ出マシタナラバ、其ノ判決ニ從ヒマスケレドモ、ソレト類似ノ事件デ、マダ行政裁判所ノ判決ガナイモノニ付キマシテハ、ソレハ行政裁判所ノ判決ト同ジ趣旨ニ取ツテ行カネバナラヌモノトハ考ヘテハ居リマセヌ、政府ニ於キマシテハ、明治初年以來公領デアルト云

フ考ハ未ダニ變ツテ居ラナイノデアリマス、行政裁判所ノ判決ノ趣旨ヲ必ズシモ正當ナモノトハ考ヘテ居ナイト云フコトハ、歷代ノ政府當局者ガ常ニ發表シテ居ル所デアリマス、又有力ナ學者デアリマシテ、行政裁判所ノ判決ト其ノ說ノ異ルモノガアルノデアリマス、又行政裁判所ト同ジヤウナ說ヲ唱ヘテ居ルヤウナ學者モアリマス、色々說ガアリマシテ、何レガ安當デアルカト云フコトニ付キマシテハ、遽ニ判斷スルコトガ困難デアラウト思ヒマス、ソレカラ行政裁判所ノ判決ガアリマシタ御朱印地トカ除地トカ云フモノヲ持ツテ居リマスオ寺ノ數ハ、全體ノ國有地ニアリマス寺院ノ數ノ約一割二分位ニシカ當ラスノデアリマシテ、其ノ他ノ寺院境内地ハ朱印地、除地ト云フコトニナツテ居ナイノデアリマス、假ニ行政裁判所ノ判決ノ趣旨ニ從フト致シマシテモ、既ニ明治三十二年六月マデニ申請シマシテ、以後ハ下戻ノ申請ガ出來マセヌ、期限ガ經過シテ居リマスカラ、今更何トモ取扱フ方法ガナイノデアリマス、サウ云フ譯デ、寺院境内地ガ、寺院ノ所有地デアルモノヲ國有ニシテ居ル、或ハ現在ノ寺院國有地ハ全部寺院ノ寺有地デアルト云フ御考ニ對シテハ、政府トシテハ御賛成出來ナイト考ヘマス

○加藤委員 只今伺ヒマス、大部分ハ唯江口政府委員ノ御私見ト伺フヨリ外ナイ、ソコデ……

○安藤委員長 加藤君、一寸申上ゲマスガ、文部大臣ハ貴族院ノ豫算總會ヘ行カナケレバナラスサウデスカラ、文部大臣ニ對スル御質問ヲ先ニ願ヒマス

○加藤委員 以上述べマシタコトニ付テ大臣カラ一ツ御所見ヲ伺ヒタイ

○荒木國務大臣 大變ニ細カイ法律ノ解釋論デゴザイマスガ、今大藏當局カラ此ノ處分ニ付テ今日マデ執リ來ツタ點ニ付テハ縷々各條項ニ付テ申述べタノデアリマス、今日マデノ上地行政處分ニ付テハ、明治初年ニ行ハレタ——是ガ色々ナ問題ニナツテ居ツタノデアリマスガ、今日マデ幾多ノ法令、幾多ノ裁判等ニ依ツテ處分セラレタモノハ、ソレヲ以テ正當ナリト私共考ヘテ居リマス、隨テ今日之ヲ處分スルニ當ツテ、是ガ如何ナルモノデアルカト云フコトニ付テハ、現在當局ノ執リマシタ方針ガ今日ノ解釋デアリ、今日ノ處分ノ基礎デアルト、斯ウ云フ風ニ思ツテ、此ノ境内地ノ處分ニ付テ同意ラシテ、此ノ案ヲ出シタ所以デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○加藤委員 大臣ハ御急ギデアリマスカラ、ソレダケ御伺ヲ致シマシテ、尙ホ他日今ノ大臣ノ御答辯ニ對シテ私ハ機會ヲ得テ御尋申上ゲタイト考ヘテ居リマス、本日ハ大臣ヘ御伺シマスノハ見合セテ置クコトニ致シマス

ソコデ私ハ大藏省ノ政府委員ニ一ツ御伺シテ置キタイト思フノデスガ、寺院ノ境内地ハ大名ノ藩地又ハ領地ト同ジヤウナモノデアル、斯ウ云フコトヲ仰シヤツタノデアリマスガ、ドウシテ之ヲ同一ト見ラレルノデアリマセウカ、大名ノ領地ト云フモノハ、其ノ時ノ將軍ト云フヤウナ者カラ貰ツタモノガ殆ド大部分ヲ占メテ居リマス、寺院ノモノハ先刻申シマシタヤウナ種類ノ境内地デアル、即チ信徒ノ寄附トカ、或ハ王侯士族ノ寄進トカ、或ハ自分自ラ之ヲ開拓シタモノトカ、或ハ買得シタモノトカ云フヤウナ種類ニ屬スル土地ナノデアリマス、全然是ハ昔ノ所謂大名ノ領地トハ性質ガ違ツテ居ルノデアリマス、ソレヲドウシテ同一ト見ラレルノデアルカ、ソレヲ一ツ御尋シタイノデアリマス

○江口政府委員 寺領ヲドウシテ大名ノ領地ト同ジニ見ルカト云フ御尋デアリマスガ、ソレハ私ガ見テ居ル譯デアリマセヌデ、明治初年ノ太政官布告ニサウ書イテゴザイマスノデ、大名ノ領地ハ上地ヲサシタガ、寺院ノ寺領ハ私有ノ姿ニナツテ居ツテ非常ニ不都合デアルカラ取上ゲロ、斯ウ云フ風ニ書イテゴザイマス、其ノ趣旨カラ見マシテモ、太政官布告ノ趣旨ハヤハリ寺領ト云フモノハ諸藩ノ大名ノ領地ト同ジモノデアルト云フ觀念デアツタト解釋シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ只今御述ニナリマシタ檀信徒ノ寄附ニナルモノ、或ハオ寺デ買収シタモノ、或ハ寺院ニ於テ開墾シタモノ、或ハオ寺デ買収シタモノ、或ハ寺院ノ境内地ガ有ニナツテ居リマス、現ニ寺院ノ境内地ガ全部デ六千万坪アリマスガ、其ノ約半分ノ三千万坪ハ私有地ニナツテ居リマシテ、アトガ國有地ニナツテ居リマス、現在私有地ニナツテ居リマス境内地ハ、今加藤サンノ仰セニナツタヤウナモノデアラウト思ヒマス、或ハオ寺デ買収シタモノモアリマセウ、或ハ檀信徒ノ寄附モアリマセウ、或ハ寺院ニ於テ開墾シテ自分ノモノニシタモノモアリマセウ、色々ノ事由ニ依リマシテオ寺ノ所有地ニナツテ居リマス、サウナツテ居ナイモノニ付テハ、此ノ際宗教團體法ノ成立ヲ機會ニ無償デ讓與シヨウト云フコトニナル次第デアリマス

○加藤委員 詰リ明治初年ノ政府ガ、大名ノ領地ト同ジコトダカラ上地ヲ命ジタノダ、斯ウ云フ御意見デアル、スルト上地ヲ命ジナイモノハ私有地デアルト認メテ宜イ譯デスネ

○江口政府委員 必ズシモサウハ申上ゲルコトハ出來ナイノデアリマシテ、先程ノ御話ハ、寺領地ハ公領トドウシテ認メタカト云フ御話デアリマシタガ、其ノ寺領デ、境内地ヲ除ク外ハ上地ヲ命ジタ譯デアリマス、併シナガラ境内地ニ付テハ上地ヲ認メテ居リマセヌ、是ハ境内地ノ方ハ上地處分ニ依ツテ官有地ニナツタノデハナイノデアリマシテ、先程モ申シマス通り、地租改正ニ當リマシテ官民有地ノ區分ヲスル必要ガアリマシテ、其ノ際ニ、民有ノ證據ノナイモノハ官有ニ編入シタノデアリマス、或ハ東北地方ノ山林ノ如キモ官有ニ編入サレタモノモ相當アリマセウガ、ソレハ地租改正ノ場合ニ官民有ノ區分ヲスル其ノ必要ニ基イテ、此ノ境内地ノ大部分ハ官有ニ編入サレタモノト考ヘテ居リマス、是ハ上地シタモノデアリマセヌ、官民有ノ區分ニ際シテ、民有ノ證據ガアリマセヌ爲ニ官有ニ編入セラレタ次第デアリマス

○加藤委員 民有ノ證據ガナイカラ官有ニスルト云フコトガ、是ガ即チ私ハ餘程無理

ナヤリ方ダト思フノデアリマス、永イ間――

何十年、何百年、若クハ千年以上ト云フヤ
ウナ長イ間ニハ、色々ナ事柄ニ遭遇シテ、サ
ウ云フヤウナ證據ト云フモノガ無クナルコ
トハ有リ勝チナコトデアリマス、サウ云フ證據
ガナイカラ之ヲ皆官有ニシタト云フコトハ、
非常ナ無理ナヤリ方デアリマス、寧ロ亂暴
ナヤリ方デアルト言ツテモ宜イ位ニ私共考
ヘルノデアリマス、サウ云フ無理ヲヤツタ
モノデアルカラ、明治十一年ノ内務省ノ達
ト云フモノヲ出シテ、時々願出タ者ニ付テ
ハ之ヲ無償下渡シヨスル、斯ウ云フコトヲ
致シタモノト見ナケレバナラス、サウ見ル
ノガ又當リ前デアル、此ノ時々ト云フコト
ニハ期限ガナイ、ナイ以上ハ是ハ先ヅ永久
ニ續クモノト見テモ宜イモノデヤナイカ、
斯様ニ私ハ考ヘル、サウスレバ明治二十二
年ニ物品會計規則ガ出タカラト云ウテ、前
ノ内務省ノ乙第四十一號ノ達ガ自然消滅ニ
ナルモノトハ思ハレナイ、私ハ斯様ニ考ヘ
ルノデアリマス、此ノ點ハ先刻ノ御説明ダ
ケデハ私ハ満足スルコトガ出来ナイノデア
リマスカラ、今一應御説明ヲ伺ヒタイ
○江口政府委員 明治十一年ノ内務省達ニ
付キマシテハ、先程モ申上ゲマシタ通り、其
ノ達ト同ジ内容ヲ規定スル所ノ勅令ガ其ノ

後デ制定サレマシタカラ、其ノ前ニ規定サ

レテ居ル所ノ達ハ自然效力ヲ失フト云フコ
トハ、是ハ從來カラ政府當局ノ懷イテ居ル
考デアリマシテ、今デモ變ツテ居ナイノデ
アリマス、其ノ達ニ期限ガ附イテ居ナイカ
ラ何時マデモ效力ガアルモノダトノミ解釋
スルコトハ出来ナイト思ツテ居リマス、ソ
レト同ジコトヲ規定スル勅令ガ明治二十二
年ニ出来テ居リマスカラ、其ノ勅令ガ出来
タ後ハ、此ノ明治二十二年ノ物品會計規則
ニ依ツテ總テ取扱ツテ行クベキモノト考ヘ
テ居リマス、又現在ニ於キマシテハ國有財
產法ガ出来マシテ、是ハ法律デアリマスガ、
其ノ國有財產法ニ依ツテ處理シテ行クベキ
モノデアツテ、今日尙ホ斯ウ云フ明治十一
年ノ達ガ活キテ居ルモノトハ考ヘテ居リマ
セス
○加藤委員 サウシマス此ノ太政官布告
デアリマスガ、是モヤハリ今日ハ皆活キテ
居ラナイ、自然廢止ニナツタモノデ何等ノ
效力ガナイモノデアルト、斯ウ云フ風ニ解
釋シテ宜シウゴザイマスカ
○江口政府委員 太政官ノ布告、上地處分
ヲ命ジマシタ布告ニ付キマシテハ、モウ上
地ヲセシムベキ土地ガナイト存ジマスカラ、
自然布告ハ事實上效力ガナイモノト考ヘテ

居リマス

○加藤委員 是ハ大變私共ノ意見ト相違致
シテ居リマスガ、今此處デ江口政府委員ヲ
相手ニシテ議論シテモ致シ方ガアリマセス
カラ、他日ニ讓ルコトニ致シマス、唯一言
江口政府委員ノ先刻來ノ御説明デハ私ハ滿
足スルコトガ出来ナイト云フコトノ意思表
示ヲ致シテ置キマス
次ニ私ハ政府ガ今回此ノ寺院等ニ無償ニ
テ貸付シアル國有財產ノ處分ニ關スル法律
案ヲ議會ニ提出シタ理由ハ、曩ニ貴族院ノ
宗教團體法案特別委員會ニ於ケル委員ノ質
問ニ對シテ、政府委員ハ、寺院保護ノ趣旨
ニ出タモノデアルト答辯セラレテ居リマ
ス、果シテ然ラバ私ハ此處ニ政府ニ對シテ
御參考マデニ申上ゲマシテ、御意見ノアル
所ヲ伺ヒタイト思ヒマス
〔委員長退席、立川委員長代理著席〕
ソレハ伊太利ニ於ケル羅馬法王及ビ「カトリッ
ク」教會ニ對スル伊太利政府ノ羅馬問題ノ
解決ニ付テデアリマス、即チ千九百二十九
年、我が昭和四年二月十一日、伊太利政府ハ
「ムッソリニ」ノ裁斷ニ依ツテ、多年「カトリッ
ク」教會ニ加ヘタル損害ト壓迫トヲ清算シタ
コトニ付テデアリマス、此ノ所謂羅馬問題
ナルモノハ、約六十年間ニ亙ル伊太利ニ於

ケル重大ナル難問題デアリマシテ、其ノ問
題ノ由來ヲ述ベマスレバ長キ時間ヲ要スル
カラ此處デハ之ヲ略シマシテ、唯其ノ概要
ダケヲ述ベマスルガ、元來此ノ羅馬問題タ
ルヤ、羅馬法王ハ基督ノ直弟子「ペテロ」以來
法燈ヲ傳承シ、全基督教會ノ首長デアルト
主張シ來リ、殊ニ中世紀以來ハ巨大ナル領地
ヲ所有シ、宗教上無上ノ權威ヲ揮ツテ來タモ
ノデアリマスガ、近代國家ノ勃興ト共ニ、其ノ
勢力ハ次第ニ衰微シ、十九世紀ノ初ニハ「ナ
ボレオン」ノ爲ニ度々其ノ領地ヲ沒收サレタ
モノデアリマス、而シテ十九世紀ノ中頃、伊太利
民族ノ復活カラ其ノ統一獨立ノ國民的運動ガ
起リ、次イデ千八百六十一年「サヴォイ」家
ガ全國ヲ統一シテ王位ニ即クヤ、法王ノ領
地ハ次第ニ縮小セラレ、次イデ千八百七十
年、伊太利「カドルナ」將軍ノ爲ニ羅馬市ハ
占領サレ、中世紀以來持續サレタ法王領ハ
喪失サレルニ至リマシタ、而シテ伊太利政
府ハ翌年、法王身分保障法ナルモノヲ發布
シテ、國內ニ於テ法王ノ一身ニ對シ特別特
遇ヲ附與スルコトヲ宣言シ、其ノ待遇ノ一
箇條ニハ、伊太利政府ハ毎年三百二十二萬
五千「リラ」、我が約百二十萬圓ニ當リマス、
之ヲ法王ニ贈呈スルト云フコトデアリマシ
タガ、併シ法王「ピオ」九世ハ、該法ハ法王

側ノ意思ヲ無視シタ一方の取極デアリカラ
不當ナルモノダト致シマシテ、其ノ承認ヲ
拒否シ、法王領ノ奪取ニ對スル永久的抗議
ノ意味ヲ以テ自ラ「ヴァチカン」内ノ囚虜ト
稱シ、生涯一步モ其ノ外ニ出デナカッタ、
爾來歷代ノ法王モ其ノ例ニ倣ヒ同様ノ態度
ヲ執リ、伊太利政府ノ年金ヲ拒絕シテ來タ
ノデアリマス、爾來伊太利政府ト羅馬法王
トハ此ノ領地沒收問題ノコトカラ、其ノ間
反目ヲ増大シ、種々紛糾問題モ起リ、即チ
之ヲ羅馬問題ト稱シテ、數十年間頗ル重大
ナル問題トナツテ來タモノデアリマスガ、
其ノ後千九百二十二年「ファシスト」ノ政治
改革ガ成功シテ、其ノ頭首「ムッソリニ」ガ
政權ヲ獲得スルヤ、宗教尊重政策ヲ執リ、
從來政府ノ執リ來ツタ所ト正反對ノモノト
ナシタノデアリマス、ソレハ「ファシスト」
其ノモノノ中ニハ反宗教的勢力モ加ツテ居
リ、「ムッソリニ」自身モ過去ニ於テハ反宗
教主義ヲ奉ジテ居ツタモノデアリマシタガ、
一旦政權ヲ獲得シ、重大ナル責任ノ地位ニ
立ツヤ、宗教ニ對シテハ宗教尊重政策ヲ執
ツタノデアリマス、即チ宗教ハ國民生活ノ
重要ナル一要素デアリカラ、宗教ハ無視又
ハ輕視スベキモノニアラズ、寧ロ國家ト結
合シナケレバナラヌト云ツテ宗教尊重政策

ヲ執ルコトニシタノデアリマス、此ノ宗教
尊重政策トシテ現ハレタモノハ、第一ニ文
部大臣「ゼンチーレ」ノ行ツタ教育制度ノ革
新デアリマス、即チ小中學校ニ於テハ、宗
教即チ「カトリック」教ガ正科トシテ再ビ入
レラレマシタノデ、十字架モ教室内ニ置ク
コトガ出來ルヤウニナリマシタ、又宗教學
校ニ對シテノ從來ノ拘束モ撤去サレマシタ、
更ニ反「カトリック」ナ點デ有名ナ伊太利ノ
祕密結社「フリーメーソン」ハ政府ニ依ツテ
解散セシメラレマシタ、又刑法ノ改正ニ依
ツテ宗教ニ對スル保護ト、僧侶ニ對スル保
護トガ加ヘラレルコトトナリマシタ、又公
休祭日ノ中ニハ教會ノ或ル祭日ヲ採リ入レ
ラレ、九月二十日ノ羅馬占領記念日ハ教會
側ニ惡感ヲ與ヘルモノトシテ廢止サレ、又
嘗テ沒收サレタ數個ノ記念物的修道院ハ教
會側ニ返還セラレ、歷史的ナ記念物ノ管理
ハ修道士ニ委託サレ、僧侶及ビ高僧職ノ俸
給ハ著シク増額セラレ、又租税モ輕減サレ
マシタ、斯ノ如ク「ファシスト」ノ宗教政策
ハ宗教尊重主義カラ著々實行セラレタノデ
アリマシタガ、「ムッソリニ」ハ是ト同時ニ千
九百二十六年、我が昭和元年八月以來、過
去數十年ニ互ル重大問題タル羅馬問題ノ解
決ニ著手致シマシタ、其ノ豫備交渉ハ政府

ト法王廳ト各自ノ代表者ニ依ツテ極秘裡ニ
進捗シマシタガ、約二箇年ヲ經テ愈々問題ノ
解決ニ近ヅイタ頃、政府代表ノ辯護士「バ
ローネ」ガ病死シタノデ、其後ハ「ムッソリ
ニ」ガ自ラ其ノ交渉ニ當ルコトトナリ、其ノ
私宅ニ於テ屢、夜半マデモ商議ヲ重ネタト傳
ヘラレテ居ルガ、政府ト法王廳ノ意見ハ遂
ニ一致ヲ見、千九百二十九年、我が昭和四年
ノ二月十一日正午「ラテラン」宮殿ニ於テ、
教會側カラハ國務卿樞機官「ガスパリ」、政
府側カラハ「ムッソリニ」自身ガ出デテ正
式調印シ、條約ノ締結ヲ見ルニ至リ、重大
問題タル羅馬問題ハ茲ニ約六十年ニシテ初
メテ解決致シタノデアリマス、其ノ「ラテラ
ン」條約ハ、序言ト二十七箇條カラ成ツテ居
ツテ、之ヲ原則トシテ約六十年前ニ沒收シ
タ法王ノ領地其ノ他ノ財産ハ無償ヲ以テ返
還サレタノデアリマス、加之伊太利政府ハ、
曩ニ決定シテ居ツタ法王ニ對スル年金ノ賠
償トシテ、此ノ「ラテラン」條約ノ批准交換
ニ際シ、法王ニ對シ七億五千万「リラ」、我
ガ約八千万圓ニ當リマスガソレヲ支拂ヒ、
同時ニ無記名式五分利伊太利公債ニテ額面
價額十億萬「リラ」、我が約一億五千五百萬
圓ヲ渡スト云フ經濟的協定ヲ爲シタノデア
リマシタガ、ソレハ間モ無ク實行セラレタ

トノコトデアリマス、斯ノ如ク伊太利政府、
「ムッソリニ」ハ宗教尊重政策ヲ實行シ、且ツ
數十年前沒收シタ宗教者ノ所有財産ヲ返還
シ、其ノ上莫大ナル賠償金マデ支出シテ居
ルノデアリマス、宗教尊重ノコトハ、唯口デ
言ツタリ、紙ニ書イタリシタ所デ何ニモナ
リマセス、實行ガ第一デアル、私ハ「ムッソ
リニ」ノ宗教尊重政策ノ實行ヲ以テ、現代
ノ政治家ハ斯クアラネバナラヌト思フノデ
アリマス、ソコデ今我が政府ニ於テハ、明
治初年以來六七十年間ニ互ル大問題タル寺
院境内地問題ヲ解決シヨウトシテ居ラルル
ノデアルガ、此ノ寺院境内地タルヤ、私ガ曩
ニ申述ベマシタ如ク、是ハ元來寺院ノ私有
地タリシモノデアリカラ、彼ノ伊太利ノ「ムッ
ソリニ」ノ如ク、全部無償デ返還スル
ト云フ奇麗ナ態度ニ出ラレテハ如何デアリ
マセウカ、否、全部無償デ返還スルノガ當
然デアルト思ヒマス、即チ現在ノ境内地ノ
中カラ、讓與セザル部分トカ、國有トシテ
存置スルノ必要アル部分トカ云フ、左様ナ
小サイ、細ガイ、ケチノシタコトヲ言ツ
テ之ヲ取り上ゲヨウトセズニ全部之ヲ寺院
ヘ讓與セラレ、否還付セラレ、眞ニ政府ト
シテ宗教保護ノ誠意ヲ表示スルノ態度ニ出
ラレルコトガ、此ノ場合當然ノ措置デハア

リマスマイカト私ハ思フノデアリマス、茲ニ伊太利政府ノ羅馬問題解決ノ概要ヲ述ベテ政府ノ參考ニ供シ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○江口政府委員 只今伊太利政府ガ羅馬法王ニ對シテ執リマシタ色々ノ手段方法ニ付キマシテ詳シク御述ベニナリマシタ、ソレニ關聯シテ我が政府ニ於テモ、寺院ノ國有境内地ハ全部還付スベキモノデハナイカト云フヤウナ御質問デアリマシタガ、政府ト致シマシテハ度々申上ゲマス通りニ、寺院ノ國有境内地ハ元來寺院ノ私有地デアル、其ノ私有地ヲ沒收シテ官有地ニシタモノデアル、隨テ還付スベキモノデアルト云フ風ニハ考ヘテ居ナイノデアリマス、明治初年以來ノ沿革等カラ見マシテモ、又其ノ後ノ法令カラ見マシテモ、完全ニ國有地デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、現ニ大正十一年ニ國有財産法ガ出來マシタ時ニ、寺院ノ國有境内地ニ付テハ立派ニ國有デアルト解釋ラシテ居リマス、此ノ國有財産法ハ勿論貴衆兩院ノ御協賛ヲ經テ制定セラレタ法律デアリマス、其ノ法律ニ於キマシテ、國有境内地ハ其ノ用ニ供スル間無償ニテ貸付シタルモノト看做スト云フ規定ガアルノデアリマシテ、之ヲ今更寺院ノ私有地デアルト云フコトハ、

其ノ法律ノ手前ニモ出來ナイノデハナイカト考ヘテ居リマス、國有財産ノ立場カラ致シマスレバ、此ノ國有財産法ノ規定ニ依リマシテ寺院境内地ノ解決ハ濟ンデ居ルト見テモ宜カラウト思ヒマス、併シナガラ寺院側ニ於テ、此ノ寺院國有境内地ノ讓與ヲシテ貫ヒタイト云フヤウナ請願ナリ陳情ガ度度アリマス、政府ノ方ニ於テモ、若シ寺院財産ノ管理ノ方法ガ完備シタナラバ適當ニ解決シヨウト云フコトニナツテ居リマス、宗教團體法ガ成立致シマシテ、寺院財産ノ管理ノ方法ガ完備スルヤウニナツタナラバ、境内地トシテ必要ナモノハ讓與シヨウト云フコトニナツタヤウナ次第デアリマス、當然還付スベキモノデアルカラ還付スルト云フノデハナイノデアリマシテ、寺院等ヲ保護シ、其ノ寺院ノ宗教教化ヲ完カラシムル爲ニ、其ノ寺院財産ノ管理ノ方法ガ完備シタ曉ニハ之ヲ讓與シヨウト云フノデアリマス、隨テ其ノ讓與ノ範圍ニ付キマシテモ、寺院ノ境内地トシテ必要ナル部分ニ限リタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、又國有地トシテ存置スルモノト云フノハ、命令條項ニモ書イデアリマス通りニ、國土保安其ノ他公益上必要ナ箇所ヲ國有地トシテ保存スルノデアリマス、例ヘバ山崩レガスル

トカ、砂ガ飛ブトカ、風害或ハ雪害ガアルト云フヤウナ所デアリマシテ、サウ云フヤウナ場所ヲ寺院ノ所有ニシテ置ケバ、寺院ヲシテ經費倒レニ陷ラシメル虞ガアリマスノデ、是ハドウシテモ國家ノ力、國家ノ經費ヲ以テ其ノ豫防工事ヲシナケレバ、災害ヲ來スト云フ所ハ却テ寺院ニ讓與スルヨリモ、國有地トシテ保存方ス方ガ宜イノデハナイカト云フヤウナ趣旨デ、國有地トシテ保存スル次第デアリマス、是ハ寧ロ寺院ノ利益ト申シマスカ、一般公益ヲ慮ツテ國有地トシテ保存スル次第デゴザイマス、又讓與ヲシナイデ賣拂フスルモノハ、寺院等ニ於キマシテ其ノ境内地ノ一部ヲ商店或ハ住宅、甚シキニ至ツテハ料理屋ト云フヤウナモノニ貸シテ居ル所ガアリマス、此ノ住宅、商店、或ハ料理屋ニ貸スト云フヤウナコトハ、御承知ノ通り寺院境内地ノ使用取締規則ニ違反シタ行爲デアリマシテ、是ハ假令民有ノ境内地デアリマシテモ、サウ云フコトヲシテハイケナイノデアリマシテ、サウ云フ境内地ノ使用取締規則ニ違反シテ使用シテ居ル所マデモ讓與スルコトハ宜シクナイト云フ考デアリマス、併シナガラ寺院等ヲ保護スルト云フ考モアリマスシ、又寺院境内地ニ關スル沿革モアリマシテ、立派ナ

國有地デハアルケレドモ、今加藤サンガ仰セラレタヤウナ経緯モアリマスノデ、サウ云フ不當使用ノ場合デアリマシテモ、其ノ讓與ハシナイガ、時價ノ半額デ特賣ヲシヨウト云フコトニナツテ居リマス、ソレデ若シ此ノ法律ガ出來ナイト假定致シマスレバ、斯ウ云フ不當使用ヲシテ居ル所ハ、寺院境内地カラ除却致シマシテ、普通ノ雜種財産トシテ時價ヲ以テ公賣スベキ所デアリマス、現ニ此ノ法律ノ執行前ニ於キマシテ、サウ云フ不當使用ヲシテ居ル所ヲ寺院境内地カラ除却シテ賣拂フシタ例モ澤山アリマス、サウ云フヤウナコトハ現行ノ國有財産法ノ規定ニ依リマスレバ、寺院國有境内地ハ其ノ用ニ供スル間ハ無償ニテ貸シタルモノト看做スノデアリマスカラ、其ノ寺院境内地ノ用ニ供シテ居ナイモノニ付キマシテハ、寧ロ公賣スベキデアリマス、ソレヲ從來ノ沿革ヲ認メマシテ、時價ノ半額デ其ノ寺院ニ特賣ヲ爲スト云フコトニナル次第デアリマスカラ、斯ウ云フ不當使用ヲシテ居ル所マデモ此ノ際讓與スルコトハドウシテモ出來ナイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○加藤委員 私ハ現在ノ寺院國有境内地ガ元來當該寺院ノ所有ニ係ル私有地デアルコトヲ述ベ、次イデ政府ガ此ノ寺院國有地ヲ

處分セラルルニ付テノ御參考ニ供シタク、伊太利ノ「ムッソリニ」氏ノ羅馬問題解決、即チ伊太利政府ト羅馬法王廳ノ間ニ於ケル約六十年間ニ亙ル重大問題デアル羅馬問題ヲ、「ムッソリニ」氏ガ如何ナル解決方ヲ爲シタカ、即チ「ムッソリニ」氏ガ政權ヲ獲得シテ伊太利ヲ統一スルヤ、國政上、宗教尊重政策ヲ執リマシテ、而モ宗教尊重ノ事實ヲ顯現シ、而シテ此ノ數十年ニ亙ル大ナル難問題タル羅馬問題ヲ飽クマデ宗教尊重ノ趣旨ニ則ツテ解決シタル事實ノ概要ヲ述ベタノデアリマスガ、尙ホ一ツ政府ニ對シテ特ニ希望申上ゲテ御意見ノ存スル所ヲ伺ヒタイと思ヒマス

明治維新直後明治新政府ハ、王政復古ノ餘勢ヲ驅リ、當時ノ一部ノ主張意見ヲ重用シテ、所謂廢佛毀釋ヲ指令シタノデアリマスガ、當時ノ地方長官ハ、政府ノ命ニ依ツテソレノ其ノ管内ニ於テ廢佛毀釋ヲ強行シタヤウデアリマス、然ルニソレ等地方長官ノ中ニ於テ、國家ト佛教ノ關係、佛教ノ國家的、文化的貢獻、佛教ト國民思想及ビ國民生活ノ關係ノ如何ニ大ナルモノデアアルカト云フヤウナコト等ヲ大體知り居タル者ハ、ソノ所謂廢佛毀釋ヲ餘リ行ハナカツタノデアリマスガ、併シ排佛思想ノ持主ヤ、

無宗教ノ者ヤ、又ハ宗教トカ思想トカニハ何ノ考モナク、唯時ノ政府、官憲ノ指揮命令ニ盲從スルヲ以テ足レリトセル者ナドハ、隨分過酷ナル廢佛毀釋ヲ強行シタ事實ガアルノデアリマス、是ハ實ニ地方長官トシテ、牧民官トシテ遺憾ナコトと思ハレマスガ、左様ナ事實カラ政府ノ命令デモ、甲ノ府縣ニハ強ク行ハレ、乙ノ府縣ニハ輕ク行ハレテ居ル事實ガアルノデアリマス、斯クシテ、十數万ノ寺院住職僧侶及ビ佛教信者デアアル數百萬數千萬ノ我ガ國民大衆ニ對スル迫害ノ程度ガ、甲地方デハ過激デアリ多大デアリ、乙地方デハ寛大デアリ多大ナラズシテ濟ンダノデアリマシタ、是等ノ事實ヨリ考ヘマスト、政府ハ地方長官ニ命令ナリ指令ナリヲ下ス場合ニハ、十分ナル考慮ヲ要スベシト思ハレルノデアリマス、今政府ガ今期議會ニ提出シタル此ノ寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ニ付テモ、是ガ本議會ニ於テ成立シテ、之ニ關スル種々ノ命令等モ確立シテ、愈之ヲ發布施行スルニ當リマシテハ、政府當局トシテハ大イニ周到ナル用意ガ必要デアラウト思フノデアリマス、ソレハ此ノ法律案第三條ニハ、現在ノ寺院國有境内地ニ付テ、特ニ國有トシテ存置スルノ必要

アリト定ムル部分、及ビ讓與ヲ爲サザルコトニ決定スル部分ハ、之ヲ讓與セザルコトナルノデハアルガ、ソレ等ノ部分、地域ヲ決定スルニ付テハ、各地方ノ稅務官吏ガ其ノ調査ニ當ルトノコトデアルカラ、ソレ等ノ稅務官吏其ノ者ガ、何レモ十分ニ此ノ寺院ノ國有境内地ハ元來其ノ寺院ノ私有地デアツタモノダト云フコト、及ビ國家ハ其ノ寺院ヲ保護シ、寺院ノ教化活動ヲ助長スル方針カラ之ヲ處分スルノダト云フコトヲ徹底シ知悉シテ居ナケレバナラヌト思フノデアリマス、是ハ政府當局トシテハ是非共徹底セシメナケレバナラヌコト思フノデアアルガ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何デゴザイマセウカ、私ハ前ニ述べタ所ノ明治政府ガ行ツタ明治初年ノ廢佛毀釋ノ、甲地方ニハ強行サレ、乙地方ニハ寛大ニ行ハレ、即チ全國的ニハ區々マチノデアツタコトニ依ツテ、寺院及ビ佛教信徒タル多數ノ國民大衆ノ受ケタル迫害ニ厚薄ガアツタ事實ヲ知ツテ居リマスルカラ、今度ノ寺院國有境内地ノ實地調査ニ當リマシテモ、左様ナ區々マチノ取扱ノナイヤウニ、出來得ル限り厚意ト親切トヲ以テ平穩和樂ノ裡ニ之ヲ行フヤウニ、政府當局ヨリ然ルベキ方法ヲ以テ命令サレンコトヲ希望スルモノデ

アリマス、是等ノ點ニ付キマシテ十分公平ニ之ヲ行ハシムルヤウニ政府ノ御注意ガアリタイモノト考ヘルノデアリマスガ、之ニ對スル御意見ノアル所ヲ伺ヒタイと思フノデアリマス

○江口政府委員 只今明治初年ノ廢佛毀釋ノ例等ヲ御引キニナリマシテ、此ノ寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ノ實施ニ當ツテ不公平ノコトガ無イヤウニト云フ御意見デアリマシタガ、此ノ法律ノ施行ニ當リマシテ、其ノ處分ヲ慎重ニ且ツ公正ニスルト云フコトハ私達ノ是非共努メネバナラス所デアリマス、又法制上ニ於キマシテモ其ノ處分ヲ適正且ツ慎重ナラシムル爲ニ、寺院境内地審査會ヲ設ケマシテ、サウシテ讓與スベキ部分、或ハ國有地トシテ存置スベキ部分、或ハ賣拂スベキ部分ニ付キマシテ無理ノナイヤウニ、公平ニ、全國ヲ通ジテ依怙最良ノナイヤウニ注意ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、又實際此ノ調査ニ當リマスル地方ノ當該官吏ニ對シマシテモ、能ク此ノ法律ノ趣旨ノアル所ヲ諒解サセマシテ、此ノ法律ノ圓滿ナル施行ヲ期シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○加藤委員 私ハ先刻滿場一致ヲ以テ可決

セラレマシタ宗教團體法ト共ニ、此ノ寺院
境内地ノ處分ニ關スル問題モ、是ガ不幸ニ
シテ日本ノ隅々マデ能ク徹底致シマセスト、
ドンナ間違ヲ起サストモ限リマセヌノデ、
願クハ此ノ宗教團體法ノ遺憾ナキ徹底化ヲ
期セラレタイ、ソレニハ文部當局ハ如何ナ
ル考ヲ持ツテ居ラレルカ、十分ニ能ク此ノ
宗教團體法ノ内容性質等ヲ一般宗教家ニ知
ラシムル必要ガアラウ、之ニ對シマシテ宗
教局長ノ御意見ノアル所ヲ一ツ御伺申上ゲ
タイト思フノデアリマス

○松尾政府委員 仰セノ點ハ洵ニ御尤デア
リマシテ、私共モ法律ガ出來マシタ以上、
其ノ法ノ精神及ビ各箇條ノ解釋等ニ付キマ
シテ、十分地方廳ノ者モ、宗教團體ノ人達
モ諒解ヲシテ貰ハネバナライ、斯ウ考ヘ
テ居リマス、隨テ本法ガ成立致シマシテ施
行マデニ約一年バカリモアラウカト存ジマ
スルノデ、其ノ期間中ニ於キマシテ、地方
廳ノ者及ビ宗教團體ノ人々ヲ集メマシテ、
或ハ協議會或ハ講習會等ノ催シヲ致シマシ
テ、由テ以テ趣意ノ徹底ヲ圖リタイ、斯ウ
考ヘル次第デアリマス

○加藤委員 講習會等モ洵ニ結構デアリマ
シテ、是非サウ御願シタイト思ヒマスルガ、
併シサウ云フ講習會等ニ出タクテモ出ルコ

トノ出來ナイ山間僻地ノ宗教家ハ、中々思ヒ
ナガラモ出ルコトハ私ハ出來ナイト思フノ
デアリマスガ、サウ云フヤウナ者ニ能ク宗
教團體法ヲ知ラシムル方法ヲ一ツ考ヘテ戴
キタイ、先刻申シマシタ明治十一年ノ内務
省ノ達ノ如キ、是ハ私ハ恐ラク各寺院ニ徹
底シテ居ラナカツタノデヤナイカ、徹底シ
テ居ツタナラバ必ズヤソレノ願出マシテ
其ノ境内地ノ下戻ヲ得タノデアラウ、ケレ
ドモソレガ徹底セヌガ爲ニ、知ラズ識ラズ
暮シテ居ル間ニツイ二十二年ノ物品會計規
則ガ出テ、遂ニ明治十一年ノ内務省ノ達ガ
無効ニナツタト云フヤウナ先刻ノ大藏當局
ノ御説明デアツタノデアリマスガ、サウ云
フヤウナコトニナリマシテハ洵ニ遺憾至極
デアルト思ヒマスカラ、ドウカ其ノ點ニ付
テモ十分御考慮ヲ願ヒマシテ、私ノ質問ハ
是デ打切ルコトニ致シタイト存ジマス

○立川委員長代理 椎尾辨匠君

○椎尾委員 只今加藤サンカラ、今度處分
セラレマスル地所ノコトニ付テ段々御話ガ
アリマシタヤウナ立場モアルコトダト思フ
ノデアリマス、今日ニ於テハ國家トシテハ、
今日ノ國法ノ立場ニ基イテ、政府委員ノ御
話ノヤウナ御考デ行ヘルコトデアリマセウ
ケレドモ、元來寺院ノ境内地ガ寺院トシテ

アルベキモノデアツタト云フコト、竝ニ明
治以來ノ取扱ノコトニ付テハ、色々論ズレ
バ際限ノナイコトガアルト思フノデアリマ
スガ、現ニ市内ニ於テ直接關係シテ居ル一
例デアリマスガ、相當其ノ時分ニ政治的ノ
利害ヲ持ツテ居リマシタ爲ニ、境内及ビ墓
地ヲ全部分割シマシテ、一枚置キニ官有地
ト民有地ニシテ置イテ、市制ガドツチニ向
イテモ方法ノ立ツヤウニヤツテ居リマス寺
ガアリマス、ソレハ當時明治十一年頃ガ如
何ニ不安ナ狀態デ、ドウナツテ行クカ分ラ
ヌト考ヘラレテ居ツタカト云フコトガ判リ
マスルシ、又同時ニ當時勸メマスル大體ノ
行キ方ハ、官有地ニスルコトガ確實デア
ルカラ其ノ判ヲ捺セト云フコトデ強要サレ
タコトガ、當時實際ニ居リマシタ者ノ事實デ
アリマシテ、當時ノ實情ハ受身ノ方デハド
ウナルヤラ分リマセズ、官有ノ方ガオ寺ノ
爲ニ良イダラウト云フ感ジデ判ヲ捺シタ者
モアリマスルシ、捺セト言ハレテ強要サレ
タカラソレニ調印シタト云フコトモ、ソレ
等ノモノハ私共數十年來調べテ居リマス所
デハ、皆生キテ居リマスル者ノ實際ノ場合
ガアルノデアリマス、今回之ヲ整理サレマ
スルノハ、現在ノ國法ノ立場デ斯ウ云フ取
扱ハ出來ナイト云フコトデヤツテ行クモノ

トシテ、此ノ際數十年ノ難問題ヲ先ヅ解決
スルト云フコトニナルモノト存ジマス、サ
ウシテ此ノ賣拂ヲシマスル豫定ニナツテ居
ル御示ニナリマシタ六万二千餘坪ノモノハ、
是ハ大體實際上ニ於キマシテ目的外使用ト
シテ、從來多少問題ニナツテ居ルヤウナモノ
ダケヲ御集メニナツタモノデアリマセウカ、
或ハサウデナイ、何カ特殊ノ立場カラ御調
ニナツタモノヲ持ツテ居ラレルカ、ソレヲ
一寸御示ヲ願ヒタイデアリマス

○江口政府委員 今御尋ノ六万二千坪ト云
フモノニ付キマシテハ、從來御承知ノ通り
目的外使用地トシテ問題ニナツテ居ルモノ
ダケヲ集メタモノデアリマス、サウシテ市
制施行地ニ於テ問題ニナツテ居ルモノダケ
ヲ集メタモノデアツテ、是レ以外ニモ斯ウ
云フ目的外使用ガ或ハ相當アルノデヤナイ
カト考ヘテ居リマス

○椎尾委員 其ノ目的外使用ヲ現ニ各所デ
愈々此ノ法ガ出來ルト高クナルカラ今ノ内
ニ——此ノ事ハ言ツテ宜イカドウカ分ラヌ
ガ、一寸申上ゲマスガ、今ノ内ニ處理ヲ終
レト云フコトヲ、ソレノ地方デハ盛ニ
今ヤツテ居ルヤウデスガ、私ハ何レニシテ
モ整理ヲ要スルノダカラ、目的外デアツテ
サウ云フ問題ハ妥當ニ處理サレタラ宜カラ

ウト云フダケニ申シテ居リマスルガ、何カ年度内ニ處理スレバ特別ニ安クスル、本法ガ施行サレレバ高クスルト云フヤウナ内示ガ出テ居ルノデゴザイマスルカ

○江口政府委員 今御尋ノヤウナ内示トハ反對ノ通牒ヲ出シテ居リマス、此ノ法律ガ施行セラルト、時價ノ半額デ安ク賣拂フコトガ出來ルシ、又代金ノ支拂方法ニ付キマシテモ、十年以内ノ年賦納付ガ出來ルト云フコトニナツテ居ルカラ、今賣拂フトオ寺ノ不利益ニナルカラ、今後ハ法律ノ施行サレルマデハ賣拂ヲ見合セロ、斯ウ云フ通牒ヲ出シテ居リマス、ソレニモ拘ラズ賣拂ヲ申請スルオ寺モアルヤウニ聞イテ居リマシタカラ、念ノ爲ニサウ云フオ寺ニ對シマシテハ、賣拂ハナイデ置ケト云フコトヲ重ネテ申上ゲテ居ルヤウナ次第アリマス、今オ寺ノ方デオ買ヒニナル餘リ利益デナイデセウ、此ノ法律ガ施行サレルト時價ノ半額デ、而モ年賦納付デ宜イノデアリマスガ、今オ買ヒニナリマス、半額トマデハ行キマセヌ、幾ラカ安クテモ時價ノ二割三割安ト云フヤウナコトデアラウト思フノデアリマス、而モ即納デス、所ガ此ノ法律ガ出來マス、非常ニオ寺ニ取ツテハ利益デアリマス、此ノ法制ノ施行マデハ賣拂ノ處

分ヲシナイヤウニト云フ通牒ヲ出シテ居リマス

○椎尾委員 私ハ今申シタヤウニ、妥當ニ處分スルガ宜カラウト云フ程度デ、今ガ宜イトモ、先ガ宜イトモ言ツテハ居ラスノデス

ガ、御答ヲ得マシテ大變明瞭ニナリマシタソレカラモウ一ツ處分サレマスル部分ノ中ニ、學校デアリマス、役所デアルトカ、公用ニ必要デアル爲ニ、市町村長若クハ自治體ガ特ニ契約ヲシマシテ使ツテ居ル部分ガアリマス、ソレハ目ノ外使用ト云フコトニ付テモ、大體ハ從來問題ニナツテ居ラスノデアリマスガ、サウ云フ部分ハ其ノ儘無償讓與サルル中ヘ當然入ツテ居ルモノデアルト思ツテ居リマスガ、其ノ點ハドウ云フ風ニナツテ居リマス、形ニ於テハ寺ノ境内地ノ一部分ガ契約上貸與ニナツテ居ル形デアリマスルケレドモ、大體監督スベキ知事其ノ他ガ、ソレヲヤリマスル場合ニハ相當命令ノヤウナ強壓ヲ以テ出來タノガ多イノデアリマシテ、假令好マヌデモサウ云フ形ニナツテ居ル所モアリマスルシ、又他ノ一ツハサウ云フ風ニナツテ居ルカラ、從來國有地ノ整理ニ於キマシテモ、斯ウ云フ目的云々ノ問題ニハナツテ居ラナイト云フノガアリマスルガ、ソレハ此ノ中ニハ無

償讓與ノ方ニ入ラナイデ、賣拂ノ方ヘデモ入ツテ居ルノカ、或ハ無償讓與ノ方ヘ入ツテ居ルノカ、ハツキリ是ハ承ツテ置キタイト思ヒマス

○江口政府委員 今御述ニナリマシタヤウナ、寺院境内地ヲ學校或ハ役所ノ地域ニ使ツテ居ル、而モ地方長官ノ許可ヲ得テ使ツテ居ルモノニ付テハドウナルガト云フ御尋デアリマス、是ハ御承知ノ通り寺院境内地使用取締規則カラ申シマスルト、地方長官ノ許可ガアレバ公益上ニハ使ツテモ宜イト云フコトニナツテ居ルヤウデアリマス、併シナガラ能ク考ヘテ見マスルト、此ノ公益事業ト云フノモ、宗教教化ト密接ナル關係ガアル公益事業ノ爲ニ境内地ヲ使フト云フコトハ結構ダト思ヒマスルケレドモ、宗教教化ト全然關係ノナイヤウナ公益事業ニ使フト云フコトニナリマスルト、ソレハドウナモノデアルカ、而モ相當ノ料金ヲ取ツテ貸シテ居ラレルト云フヤウナ場合等ニ付キマシテハ、之ヲ全部讓與スルト云フコトハ考ヘモノデアルト云フ風ニ考ヘテ居リマス、是ハ具體的ノ場合ニ付キマシテ能ク調査ヲ致シマシテ、寺院境内地處分審査會ニモ掛ケマシテ、慎重ニ審議シタイト考ヘテ居リマス、御手許ニ差上ゲマシタ表ノ中ニ賣拂ス

ベキモノト推定シマシタ六万二千坪ニハ、今御述ニナツタヤウナ土地ハ入ツテ居ナイノデアリマス

○椎尾委員 サウシマス、是カラ審査會ニ於テ無論一々ハ決定サレルノデアリマスル

ガ、凡ソ審査ノ問題ニナリマス地域ガドノ位デアアルカト云フコトノ、何カ大體ノ歩合デモ御考ニナツテ居ルコトガアリマスカ
○江口政府委員 今御尋ノ點ニ對シマシテハ、御手許ニ配付シテアリマス、命令條項ノ中ニ書イテアリマス、寺院等ニ於キマシテハ公益事業ヲ行ツテ居ル、例ヘバ寺院デ幼稚園ヲ經營スル、慈善病院ヲ經營シテ居ルト云ツタヤウナ所ハ、無償デアルト云フコトニナツテ居リマス、併シナガラ他ノ人ニ公益上ヤラシテ居ルト云ツタヤウナ場合ニ付キマシテハ、ソレハ當然讓與スベキモノトハ考ヘテ居リマセヌ、併シナガラ公益事業ノ性質竝ニ公益事業ニ供シテ居ル等ノ色々ノ事情等ヲ考ヘマシテ、無理ノナイヤウニ解決致シタイト思ヒマス
○椎尾委員 少シ御尋シタコト違ツテ居リマスガ、其ノ説明ノ所ハ説明デ能ク諒承シマシタ、寺院ガ寺院自ラ公益事業ヲヤツテ居ルト云フ分ハハツキリ分リマスガ、從來公益事業ヲヤリマスノハ、宗教上ノ特殊ノ團體ノ

形多クヤツテ居ルノデアリマス、何々會
ト云フヤウナ會ヲ作ツテ、其ノ寺院ノ境内
ナリ何ナリガ公益事業ニ用ヒラレテ居ル場
合ガ多々アル、ソレハ直接經營シテ居ルト
云フコトニナライ形デアリマスガ、私共
ハソレガヤハリ相當ニ斟酌シテ取扱ハレン
ケレバナラスト思フノデアリマス、無論ソ
レニハ其ノ寺院ハ入ツテ居リマスガ、寺院
以外ノモノヲ加ヘタ所ノ一ツノ公益事業團
體ト云フ形デヤツテ居ルノガ多イト思ヒマ
ス、私共ノ知リマスル限リデハ半數ドコロ
デハナイ、八九割モサウ云フ形ニナツテ居
ルドラウト思ツテ居ルノデアリマスガ、其
ノ點ニ付テ寺院直接經營ト云フ考デ扱ハレ
マスルコトガ、非常ナ迷惑ヲ生ズル場合ガ
アルカト思フノデアリマス、ソレカラモウ
一ツハ、其ノ寺院以外ノ公益的ノモノデモ
ソレハ別デアアル、私モ別デアアルコトハ諒承
スルノデスガ、前ニ申シタヤウニ、學校ト
カ公署トカ云フモノニ使ハレマスルノハ、
場所ノ便利モ無論アルドラウト思ヒマス
ケレドモ、主ニソレハ僅カノ賃賃借ノ形デ、
充ガヒヲ與ヘテ使ヘルト云フ、即チ有利ニ
使ヘル、低廉ニ使ヘルト云フコトガ、サウ
云フモノヲ御使ヒニナツタ本デアルト大體
見テ居ルノデアリマス、幾ラカ賃ヲ取ツテ

居ツタト云フコトノ爲ニ、ソレハ全部賣拂
スベキモノダト云フコトニナリマスノハ、
官權ヲ以テ壓迫シ、欺イテ斯ウ云フコトニ
陷レタト云フコトニナル虞ガアルノデアリ
マス、勿論欺イタ考デモナク、陷レル考デ
モアリマセヌケレドモ、多分ニサウ云フ契
約ニ對シテハ、官有地デアアルガ爲ニ寺院ノ
方デハ免除サレタイ、サウ云フ場合ヲ避ケ
タイト云フコトニ願ツテモ、相當公ノ力ヲ
以チマシテ承諾サセテ置イテ、其ノ分ハ何
年間、何十年間前デアリマスカラ、ソレデ
進ンデ來マシタノガ、今日ソレヲ目的外ノ
使用デアルトカ、或ハ寺院自ラノ公益事業
デナイトカ云フコトデ、嚴シイ處分ヲサレ
ルト云フコトニナリマスルト、結果カラ言
ヘバ壓迫サレ、欺カレタコトニナルノデ
アリマシテ、私ハ多少サウ云フ立場ヲ
論議致シマスルカラ、前カラ其ノ事ハ論
ジテ居ルノデアリマス、事實縣知事初
メサウ云フ者ガ不當ナ事ヲスルノデヤナ
イガ、他日足ガ國有カ民有カト云フ問題ガ
起ツタ時ニ必ズソレガ問題ニナルノデア
ツテ、サウシテ其ノ時分ハ其ノ時分ダケ
ノ考デヤラレルト云フコトニナルト、遂ニ欺
ク、陷レルト云フコトニナルト云フコトヲ論
ジタコトモアリマスガ、成ベクサウ云フ事

件ガ起ラナイ爲ニト云フ注意ヲ與ヘタコ
トモアリマスケレドモ、事實相當其ノ數ガ
アツタノデアリマス、其ノ點ニ付テハ一層
慎重ナル御考慮ノ上デ解決ノ出來マスルヤ
ウニ、詰リソレ等コソハ大體ニ於テハ無償
讓渡ノ中ニ入レラレテシマツタ方ガ然ルベ
キモノダ、目的外ノ使用ト云ヒマシテモ、
從來不當使用ト云フヤウナ名デ考ヘラレテ
居リマスルモノニハ、相當ノ取扱ガ然ルベ
キダケレドモ、合法使用ト云フ風ニ考ヘラ
レテ居リマスル分ハ、其ノ本質ニ付テハ相
當疑ガアルノデアリマスケレドモ、ソレ等
ノ問題ヲ一掃シテ片付ケルト云フ場合ニ於
テハ、餘程寛容ナル態度ヲ以テ、サウシテ
全部サウ云フモノハ無償讓渡ノ方ヘ入レラ
レルコトガ當然ダト考ヘルノデアリマシテ、
其ノ點ニ付テ尙ホハツキリシタ御答ガ願
ヘレバ結構デアリマスケレドモ、願ヘナケ
レバサウ云フ希望ヲ申上ガテ置キマス
先程申上ガマシタ疑ノ點ハ、不當使用等
ニナツテ居リマスル分ト、目的外使用ト云
フ分ト、其ノ區別ガ付イテ居ツテ、不當使
用デハナイガ目的外使用ト云フ分ガ調ベラ
レテ居ルモノガアルカト云フコトヲ承ツタ
ノデスガ、ソレハ無イナラ無イデ宜シウゴ
ザイマス

○江口政府委員 只今御尋デアリマスガ、
寺院ガ直接公益事業ヲ營マナイデ、寺院ノ
關係セル團體等ニ於テ行ツテ居ル場合、ヤ
ハリ無償讓與ガ出來ルカト云フ御問デア
カト思ヒマスガ、寺院ガ直接行フ公益事業
デアリマセヌデモ、例ヘバ其ノ寺院ノ住職
ガ其ノ團體ノ役員ニナツテ居ラレルト云ツ
タヤウナ場合ニハ、ヤハリ寺院ガ其ノ公益
事業ヲ營ンデ居ルモノト解釋シテ宜カラウ
ト思ヒマス、隨デサウ云フモノノ數地ハ無
償讓與ヲサレルモノドラウト考ヘテ居リマ
ス、又寺院ガ第三者ニ使用サセテ居ルモノ、
寺院ニ全然關係ノナイ者ニ、地方廳アタリ
カラ頼マレテ安イ料金デ貸シテ居ルト云ツ
タヤウナモノニ付テモドウスルカト云フ御
尋デアリマシタガ、其ノモノニ付キマシテ
ハ、今椎尾サンノ御述ニナリマシタ目的外
ノ使用デアリマシテ、是マデモ讓與スルト
云フコトハドウカト考ヘテ居リマス、併シ
ナガラ非常ニ安イ料金デ貸シテ居ルノデア
リマスカラ、金ヲ出シテ之ヲ買フト云フコ
トハオ寺ニ取ツテモ非常ニ苦痛ドラウト思
ヒマス、斯ウ云フモノニ付キマシテハ、能
ク其ノ地方廳ナリ關係者トモ相談ヲ致シマ
シテ、或ハオ寺デ買ヒマスル價格以上ニ其
ノ縣廳アタリデ買フヤウニスルカ、或ハ相

當ノ料金ヲ出サセルヤウニスルカ、オ寺ニ對シテ苦痛、不便ヲ與ヘナイヤウナ解決策ヲ講ジテカラ、賣拂等モ考ヘテ見タイト考ヘテ居リマス、決シテ無理矢理ニ賣拂ツテ、却テオ寺ニ不利益ナリ損失ヲ蒙ラセルト云フコトハナイヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、又隨ヒマシテ一般的ニサウ云フモノヲ全部ドウ云フヤウニスルカト云フコトハ、此ノ際明言スルコトハ困難デアリマシテ、具體的ノ場合ニ當リマシテ、無理ノナイヤウニ解決ヲスルト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ不當使用ノモノト目的外使用ノモノトヲ分ケテ調査シタ例ガアルカトノ御尋デアリマシタガ、部分的ニアルト思ヒマスガ、全國ニ互リマシテサウ云ツタモノヲ調ベタモノハアリマセヌノデ、今後ノ調査ニ俟ツ外ナイト考ヘマス

○加藤委員 同ジ寺院ノ境内地ニ民有地官有地ノ錯綜シテ居ツタ場合ニ、其ノ民有地ニ對スル公租公課ニ付テハドウ云フコトニナリマスカ、ソレヲ一寸御伺シタイ

○江口政府委員 今ノ御尋ノヤウナ場合ニハ、現行法ニ於キマシテハ、民有地ニ付テハ地租其ノ他ノ附加税ガ課カルノデアリマス、併シナガラ今度宗教團體法ガ施行セラ

レマス、寺院境内地ニ付キマシテハ、民有地ニ付テモ公租公課ハ課カラヌヤウニナルト思ヒマス

○加藤委員 能ク分リマシタ、尙ホ先刻申シマシタ此ノ判決ノ記録ハ、速記録ニ掲載スルコトヲ御許ヲ戴キタイト思ヒマスガ、左様御取計ヲ願ヒマス

○立川委員長代理 承知シマシタ——本案ニ對スル質疑ハ之ヲ以テ打切りタイト存ジマスガ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○立川委員長代理 ソレデハ本案ニ對スル質疑ハ之ヲ以テ打切りマス、明日ハ午後一時カラ開會致シマス、本日ハ之ヲ以テ散會致シマス

午後四時三十一分散會

〔加藤委員發言參照〕

土地國有林下屋請求ノ訴

明治三十七年第四百七十二號
明治四十三年二月二十八日
第一部宣告

判決要旨

一社寺ガ朱印狀ヲ以テ境内ニ對スル租税ヲ免除セラレタルトキハ該土地ハ反對ノ證據ナキ限り其社寺有ト認ムルヲ相當トス

一係争地ニシテ起訴者ニ屬スル以上ハ立

本モ亦全部其所有ト認ムベキモノトス

一明治四年正月五日附ノ布告ハ其當時社寺ノ境内タル土地ハ祭祀法要等ニ必要ナラザリシ部分ト雖モ他ノ公領地ト其性質ヲ同ウセザルコトヲ認メ上地スルヲ要セザル旨趣ナリトス

一社寺ト其境内地トノ關係ハ必ズシモ公領關係ノミニ止マリシモノニアラズ

一朱印狀ニ於ケル各種ノ文言ハ孰レモ其時代ノ必要ニ依リテ變遷シ各特別ノ意義ヲ有スルモノトス

一舊時ノ爲政者ハ社寺領ヲ與奪シ之ニ租税ヲ賦課シ又ハ減免スルノ權ヲ有シタルモノトス從テ社寺領ニ對シテハ其性質上租税ヲ賦課シ得ベキモノニアラズト云フヲ得ズ

一境内除地トハ社寺境内ニシテ其貢租ヲ免除セラレタル土地ヲ指稱ス

栃木縣芳賀郡益子町大字
益子

原告 西明寺

被告 田中慧音

右代表者 外六名

辯護士 平松福三郎

訴訟代理人

農商務大臣男爵

被告 大浦 兼武

辯護士

訴訟代理人 矢部 廉

辯護士

同 濱地 八郎

右當事者間ノ土地國有林下屋請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告ノ明治三十七年九月六日林第四八三九號附ヲ以テ原告ニ與ヘタル指令ハ之ヲ取消ス被告ハ左記國有林ヲ原告ニ下戻スベシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

左記

栃木縣芳賀郡益子町大字益子字高館第四四六六番

第四四六八番第四四七〇番西明寺上地

一二等官林十三町九反三畝六步

同所字馬場地第四四七一番西明寺上地

一等外官林四畝二十四步

同字第四四七七番イ號西明寺上地

一同九畝步

同字第四四七八番西明寺上地

一同三畝十五步

同所字山脇第四四七四番西明寺上地

一同二畝六步

同所字釘木第四四八二番西明寺上地

一同一畝七畝二十四步

同所字馬場北第四四七二番西明寺上地

一宜有芝山二畝十五步

同所字第四四七三番西明寺上地

一同一畝二十四步

合計八筆十四町三反四畝二十四步

竝右地上ニ於ケル立木全部

以上

事實

原告陳述ノ要旨ハ栃木縣芳賀郡益子町大字益子字高館第四四六六番第四四六八番第四四七〇番西明寺上地二等官林十三町九反三畝六步外七筆ノ地ハ原告寺ノ舊境内ニシテ所有ニ屬シ之ニ樹木ヲ栽培スル等自由ニ進退シ來リタルモノナルニ上地令ニ依リ官有ニ編入セラレタルハ不當ナルニ依リ其下戻ヲ求ムト云フニ在リテ立證トシテ甲第一號證安政四年ノ樹木寄附植付ニ關スル書面及ビ甲第二號證慶安元年ノ朱印狀ヲ提出セリ

被告答辯ノ要旨ハ係争地ノ原告寺舊境内タルコト係争地内ニ甲第一號證記載年度ニ植付タリト認ムベキ杉三百六十九本ノ存在スルハ之ヲ認ムルモ甲第二號證朱印

狀ハ單ニ係争地ガ原告等ノ公領地タルヲ示スニ止マリ之ノミニ依リ其私有ナル事實ヲ認ムルニ由ナキモノナレバ原告請求ハ理由ナキニ依リ棄却セラレ度シト云フニ在リテ立證トシテ乙第一號乃至乙第十八號及參考乙第一號乃至第三十四號證ヲ提出セリ

理由

係争地ノ原告寺舊境内タルコト、係争地ニ寄附植付ノ證ト年代ノ符合スル樹木ノ存在スル事實ハ被告ノ認ムル所ナルヲ以テ本件主要ノ争點ハ甲第二號證ナル朱印狀ノ解釋如何ニ在リトス被告ハ朱印狀ハ單ニ公領地タル事實ヲ示スニ止マリ所有ノ證トナスニ足ラズト云フモ甲第二號證朱印狀ニハ當時領下野國眞壁郡益子村ノ内四十石事任先規寄附之訖全可收納竝寺中竹木諸役等免除云々トアリテ原告寺ハ益子村ニ於ケル四十石ノ地ヲ從來ノ如ク寺領トシテ公領セシメラレタル以外ニ寺中即境内ニ對スル租稅竹木ノ徵發其他一切ノ負擔ヲ免除セラレタル者ナルヲ認ムルニ足ル而シテ境内即土地ニ對スル租稅ヲ免除セラルルハ該土地ガ租稅ヲ賦課セラレ得ベキ性質ノ者ナルコトヲ示スノミナラズ右租稅ガ土地ニ對スルモノナル以上ハ其種類名稱

ノ如何ヲ問ハズシテ毛上稅ト云フベカラザルヲ以テ該土地ガ官有ニアラズシテ私有ナル事實ヲ推定セシムルニ十分ナリトス而シテ之ヲ私有地ナリトセバ其何人ニ屬スルヤハ反對ノ證據ナキ限り現ニ右租稅ヲ免除セラルベキ旨ヲ達セラレ且實際ニ於テ之ヲ境内トシテ占有スル朱印狀名宛ノ社寺有ト認ムルヲ相當トス加之原告寺ハ苗木ノ寄附ヲ得テ係争地ニ樹木ノ植付ヲ爲スガ如キ自由ニ之ヲ進退シタル實蹟ヲ認メ得ル以上ハ之ヲ原告有ト認メザルヲ得ズ既ニ土地ニシテ原告有ナル以上ハ地上ノ立木ハ獨リ寄附植付ノ年代ニ符合スル分ノミニ限ラズ反對ノ證ナキ限り全部原告有ナリト認ルヲ相當トス然ニ本件ニ關シ被告ハ數十ノ證據書類等ヲ提出シ土地令ノ關係寺社領ノ性質竝朱印狀ノ效力等ヨリ觀テ朱印狀ニ依リ社寺境内ヲ社寺有ト認ムルヲ以テ不當ナリトシ詳細ニ陳辯スル所アルニ依リ其所論ニ就キ審查スルニ先ヅ被告ハ上地令ノ關係ニ付社寺領ハ其境内外ヲ問ズ明治維新ノ後社寺上地令ニ依リ上地セシメラレ之ニ對シ遞減祿ヲ支給セラレタル者ナレバ封建時代ノ武家ノ領地ト同性質ニシテ公領關係ニ過ギザレバ之ヲ私有ト認ム可ラズト主張

スルモ境内地モ他ノ公領地ト全然同性質ナリシヤ否ヤハ頗ル明確ナラザル者ニシテ最初ノ上地令ナル明治四年正月五日附ノ布告(乙第一號證中ニモ「今度社寺領現在ノ境内ヲ除ク外一般上地被仰付(下略)」トアリテ其境内地ヲ除キタルハ單ニ祭祀法用ニ必要ナリト認メタルニ依ルカ又ハ同令ノ後段ニ記載セル田畑ト同様其私有ナルヲ認メタルニ依ルカ又前記「社寺領」ナル文詞ハ公領トノ意義ナルカ又ハ公領地ト私有地トヲ混合シ漠然右ノ文詞ヲ使用セシモノナルカ明確ナラザルモ要スルニ最初ノ上地令ニ於テハ必ズシモ祭祀法用等ニ必要ナラザリシ部分ト雖モ其當時境内タリシ地ハ他ノ公領地ト其性質ヲ異ニスルヲ認メ上地スルヲ要セザルモノトナセシハ明瞭ナリトス然レバ右上地ニ係ル地所等ノ調査様式ヲ示達セル明治四年七月四日附ノ達書(乙第三號證)ニハ「境内外ヲ不論本社及建物等現今ノ地景ニヨリテ相除其他總テ上地可致(下略)」トアリテ境内内地ヲモ上地セシメタル事實又乙第七號證國債始末乙第十八號證社寺遞減祿調帳ニ依リ上地シタル境内地ニ對シ遞減祿ヲ給與セシモノアル事實ヲ認メ得ベキガ如キモ右ハ何レモ上地令執行ニ關スル

手續規定又ハ同令ニ基キタル處分ニ外ナラズシテ當裁判所ハ森林原野下戻法ニ基キ上地處分ニ依リ私有地ヲ上地セシメタルニアラザルヤ否ヤヲ判斷スベキモノナルレバ右上地令ニ基ク處分ニ於テ境内地ヲモ他ノ社寺公領ト同一ニ取扱ヒタル事實アリトスルモ之ニ依リ直ニ其性質ヲ同一ナリト斷定スルハ所謂問題ニ依リ問題ヲ決スルモノニシテ爲シ得ベキ限リニ在ラザルノミナラズ假リニ前記被告ノ主張ヲ正當ナリトスルモ本件係争地ニ對シテハ遞減祿ヲ給與シタルモノニアラザルハ被告ノ争ハザル所ナルヲ以テ本件ニ關シテハ此點ニ關スル被告ノ主張ヲ採用シ難キモノトス又被告ハ社寺領ノ性質ニ關シ社寺領ハ領知權ヲ國家ヨリ付與シ社寺ヲシテ租稅其他ノ收納ヲ爲シ且一切領内ノ進退ヲ爲サシメタルモノニシテ國司守護等ノ其領内ニ立入り社寺ノ領知權ヲ妨害スベカラザルノ效果ヲ生ジタルモノナリト主張スルモ社寺ト其公領地トノ關係ハ前記被告ノ主張ノ如クナルヲ認メ得ベキモ社寺ト境内地トノ關係ハ單ニ右公領關係ノミニ止マリシモノト認メ難キヲ以テ境内地ニ關シテハ直ニ各被告ノ主張ヲ是認スルニ由ナキモノト被告ハ

境内地モ社寺領ナルヤ否ヤニ關シ社寺ノ境内山林等ハ祭祀法用及神佛ノ神聖ヲ保ツ爲メ清淨ノ靈域トシテ最モ必要ナル部分ナルヲ以テ社寺領タルコト疑ヒナキノミナラズ足利氏時代ニ於ケル一般社寺領ニ對スル守護不入ノ文言(乙第十三號乃至十五號參考乙第十一號證)カ徳川氏初期ノ朱印狀ニ於テハ境内山林竹木等ニ對スル守護不入ノ文言(參考乙第十三號乃至十五號證)トナリタルモノナレバ境内モ亦一般社寺領ト區分ナキコトヲ見ルニ十分ナリト云フモ境内山林等ハ被告意見ノ如ク社寺ニ對シ最モ必要ナル部分ナルヲ以テ單ニ公領關係ノミニ止マラズ尙ホ其以外ノ關係ヲモ有セシ者トモ推定シ得ベキノミナラズ乙第十三號乃至十五號證ハ足利氏時代ニ於ケル然モ境内地ニ關係ナシト認ムベキ社寺公領地ニ對スル守護不入ノ文言ナレバ其時代ニ於テ社寺公領ニ守護不入ヲ保障セシ事實有トスルモ之ニ依リ徳川氏時代ニ於テ公領地ト區分セララル者ト認ルヲ得ベキ境内地ニ對シ守護不入ヲ保障セラレタル事實ノミヲ以テ境内地モ社寺公領ナリトノ斷案ヲ下スハ論理ノ許サザル所ナリトス唯參考乙第十一號證ニハ「東寺領境内竝所々散在田畑屋

地山谷等(中略)爲守護不入地(中略)全領云云」トアリテ境内地ヲ寺領ト認メタルガ如シト雖モ往古ニ於ケル文字ノ使用ハ精確ナラズシテ所領ナル文字ヲ所有ノ意義ニ使用スルハ往往散見スル所ナルヲ以テ本證ノ如キモ東寺ノ所有地ナル境内地ト其公領ナル田畑以下トヲ併合記載セシガ爲之ヲ寺領ト書セシトモ認メ得ベク且本證ハ亦享祿三年附ニシテ足利氏時代ノ文書ナレバ唯ダ此ノ一證ノミニ依リ其朱印狀ニ公領地ト境内地トヲ明確ニ區分セシ徳川氏時代ニ於テモ總テ境内地ハ公領ナリシモノナルヲ認メ難キノミナラズ現ニ徳川氏時代ニ於テハ寛文五年ノ同家令條ニ「一、寺社領無之境内計之御朱印雖有之於一宗之本者繼目之御朱印可被下之事」トアリテ境内ハ寺社領ト認メザリシモノトモ解シ得ベキニ依リ境内モ社寺ノ公領ナリトノ被告ノ主張ハ之ヲ認ムルニ由ナキモノトス以上説明スル如ク社寺境内ハ社寺公領ナリトノ事實ハ之ヲ認ムルニ由ナク假リニ之ヲ公領ナリトスルモノ一面公領地ナル土地モ其土地ノ性質ハ民有タリ得ルハ恰モ本件原告所在地タル盆子村ニ於ケル四十石ノ地ガ一面原告寺ノ公領タルト同時ニ同村民ノ私有ナルヲ

推定シ得ラルルガ如クナルヲ以テ境内地ノ高キモ一面公領ナリシト假定スルモ單ニ其理由ノミニ依リ之ヲ原告ノ私有ニアラズト斷定スルヲ得ザルモノトス又被告ハ朱印狀ノ效力ニ關シ朱印狀ノ文言ハ區區ナルモ要スルニ領知權ヲ認メ其領土内ニ於テ他ノ妨害ヲ受ケザルコトヲ保障シタルニ過ギズシテ之ニ於ケル「諸役等免除」ノ意義ハ國ノ領土ヨリ除キテ之ヲ社寺ニ領知セシメシ結果國司地頭等ハ他ノ領地ニ對シ諸役ヲ課シ之ヲ妨害スルノ權利ナキコトヲ保障シタルニ止マリテ有租地ノ年貢ヲ免除シタルモノト同一ニ視ルベカラズト云フモ朱印狀ノ各種ノ文言ハ各其時代ノ必要ニ基キ制定セラレタルモノト認ムベク例ヘバ諸侯割據シ法令ノ遵奉セラレザリシ足利氏時代ニ於テハ社寺領ニ對シ「守護不入」ノ文言ヲ以テ守護ガ諸種ノ負擔ヲ賦課シ又ハ其他ノ妨害ヲ加フルヲ制止スルノ要アリシモノナルベキモ天下統一ノ徳川第三代將軍以降ノ時世ニ於テハ社寺領ニ對シ他地ノ領主等ガ妨害ヲ加フベキ懸念ナキヲ以テ社寺ニ對スル恩惠トシテハ其貢租等ノ負擔ノミヲ免除セシモノトモ認ムベクシテ各種朱印狀ヲ以テ一概ニ妨害ノ保障ニノミ

限ルモノト認メ難キモノトス又被告ハ免除文言ヲ以テ有租地租税免除ト同一ニ視ルベカラズト云フモ「境内又ハ寺中山林竹木諸役等免除」ノ文言ハ上ニ説明セルガ如ク境内又ハ寺中ニ對スル租税山林竹木ニ對スル負擔其他一切ノ諸役ト各別ニ之ヲ免除スルノ意ニアラズシテ假リニ境内又ハ寺中ニ關スル諸役ヲ免除スルノ意ナリトスルモ尙ホ諸役内ニハ「段錢」等ノ土地ニ對スル如キ負擔ヲ包含シ且免除トハ單ニ妨害ニ對スル保障ノミニアラズシテ金錢等ノ提供ヲ免除スルノ意ニシテ免除セザルトキハ之ヲ朱印狀下付者ノ收納シ得ベキモノナルハ參考「乙第二十五號證慶安元年附ノ美濃國妙心寺ニ對スル朱印狀ニ「寺中院內諸役免除之如有來永可收納者也」トノ文言ニ依リテ推定スルニ難カラザレバ朱印狀文言ハ總テ單ニ妨害ヲ保障スルニ止リ免除トハ租税ノ免除ト認ムベカラズトノ被告ノ主張ハ採用シ難キモノトス又被告ハ「社寺領ト貢租トノ關係ニ關シ社寺領ナル以上ハ他ニ向ツテ貢租ヲ納ムベキ筈ナルハ言フ埃タザルヲ以テ免除文言ヲ前記ノ如ク解釋スルハ不當ナリト云フモ社寺領ナル以上ハ貢租ヲ賦課スベキモノニアラズトノ旨趣ヲ示達シ各時代ヲ

通ジ遵守セラルベキ法令ハ一モ存在セザルノミナラズ反テ參考乙第九號證ニハ「里見安房守ヨリ被付置候社領三百石之處物成者御公方ヘ御納（下略）」トアリ參考乙第十號證ニハ「（前略）右ハ元其領主ノ歸依ハ由緒ニヨリ私ニ寄付イタシ候事ニ付御料所ニ於テ而取放ニ相成候儀ニ御座候」トアルニ依レバ將軍家ハ社寺領與奪ノ權スラ之ヲ有セシヲ認ムルニ足レバ其範圍内ニ於ケル諸種負擔ノ賦課若クハ減免ノ權ノ如キハ當然之ヲ有セシモノト推定スルニ難カラザルモノト被告ハ前記論旨ニ關シ參考乙第一號乃至第五號證參考乙第七號證一、二參考乙第八號證竝ニ乙第八號乃至第十一號證ヲ引用スルモ右ノ内參考乙第一號乃至第七號ノ二ハ其參考乙第五號證ヲ除ク外ハ何レモ王朝時代若クハ鎌倉時代初期ノ成立ニ係ル文書ニシテ各其成立ノ時代ニ於テ或ハ神戶神地ヲ定メ或ハ凶年ニ於テモ社寺ノ封ノミハ田租ヲ免ゼザル旨ヲ令シ或ハ國分寺ノ封佃稻地子等ハ社家ノ收納スベキモノタルヲ達シ若クハ神戶ノ百姓ハ神社ノ修理スベキモノナル旨ヲ示達シ又ハ神領ノ据置増加等ヲ示達シ若クハ寺領ハ荒廢ノ地ト雖モ地頭等之ヲ

妨害スベカラザル旨ヲ令達セルニ過ギスシテ概ネ境内地ニ關係スル者ト認メ難キノミナラズ一モ各其時代ニ於テモ社寺領ニ對シテハ貢租ヲ賦課スベキ者ニアラザル旨ヲ明示スル者ナシトス而シテ參考乙第五號證寶永年代即徳川氏時代ニ於ケル公文書ニハ「御老中方エ伺有之候上寺社領モ自今私領竝人足諸色差出候旨ニ相極候」トアリテ反テ明ニ寺社領ニ對シテ諸役ヲ負擔セシメタルヲ證スルノミナラズ境内ニ關シテ慶安三年附相模國江ノ島辨才天ニ對スル朱印狀（參考乙證第三十一號）ニハ「相模國鎌倉郡江ノ島辨才天境内山林竹木諸役等免除之雖然獵師町地子同船役者如有來可爲公役也此外云云」トアリ又當裁判所明治三十七年第一〇八三號事件ニ於テ鑑定人三名一致ヲ以テ其成立ヲ正確ナリトセル甲第七號證ニハ「一、境内山林園伽井谷（中略）合十四個所此高合十二石七斗七升慶長七年ヨリ御免除（下略）」トアルニ依レバ社寺境内地ニ對シテモ貢租ヲ賦課セシコトアルハ明瞭ナレバ社寺領ニ對シテハ其性質上貢租ヲ賦課スベキ筈ナシトノ被告主張ハ理由ナキモノトス又右論旨ニ關シ被告ノ引用スル乙第八號乃至乙第十五號ハ「寺社領守護不入

考」ナル書籍ノ拔萃ニシテ其乙第八號證ハ徳川氏初期ニ於ケル朱印狀文言ノ由來ヲ説明セルモノニ係リ同證ニ於テモ「國初以來御朱印ノ文ニ守護不入ト見ヘタルハ天文ノ頃不入ノ語ヲ諸役免除ノ事ニ轉ジ用ヒシヨリ因循シテ唯舊文ニ依ラレタルマデニシテ其實ハ諸役免除ト別ニ等有ニハアラザルベシ」トアリテ徳川初期ノ朱印狀例ヘバ參考乙第十三號乃至第十五號證ノ如キニ守護不入ノ文言アルモ是レ後世ノ諸役免除ノ文言ト同一ノ内容タリ其初期ニ於テ守護不入ノ文詞ヲ使用セシハ本文ノ頃即足利氏末期ニ於テ守護不入ナル文詞ヲ諸役免除ノ意義ニ使用セシコトアルニ基因スト云フニ在リテ本書ノ著者ト雖モ足利氏時代ニ於ケル守護不入ナル文言ノ内容ト徳川氏時代ノ諸役免除ナル文言ノ内容ト同一ナル旨ヲ認メタルニアラザルハ明カナリ又乙第九號證ハ足利氏時代ニ於テ南禪寺ニ下シタル下知狀ニシテ本證ハ寺社領トシテ諸役ヲ免除セラレタル地ハ又守護不入地トシテ他ノ妨害ヲ受クベカラザル者ナルコト即チ諸役免除ノ效果トシテ守護其他ガ之ヲ妨害スベカラザルモノナル旨ヲ示スニ止マリテ其時代ニ於テモ諸役免除ノ内容ト守護不入

ノ内容ト必シモ同一ナル旨ヲ示スモノニア
ラズ乙第十號證ハ足利氏時代ニ於ケル不
入文言ノ説明ニシテ同證ニ於テモ「其寺院
ニ證書ヲ出シテ軍務ノ賦課臨時ノ課役等免
除セリ」皆正租ヲ其主ニ收ムルノミニシテ
臨時ノ公事軍賦土木ノ役夫等ヲ免除シ其他
ヲ亂妨スルモノヲ制セシ事ト見エタリ」ト
アリテ社寺ニ賦課シ得ベキ諸負擔ヲ免除セ
シ旨ヲ明記シ又乙第一號證ハ駿河志料ニシ
テ「段錢」ナル者ノ性質ヲ説明シ「段錢ハ租稅
地子ノ外一段何百文ト社寺ノ興立修理等
ニ宛行ハレタリ云云」トアリテ段錢ノ土地ニ
對スル負擔ナルヲ明示シ又同證後段ニハ「建
武以來モ租稅ノ外反對ヲ宛催スハ此餘風ニ
テ今川文書ニ代方段錢トモアリ神田佛田
トモニ一國一圓ニ宛ラレ又故アリテ免除
ノ地モアリケン」トアリテ社寺領ニ之ヲ
課免セシコトアルヲ示スノミナラズ社寺
領ニ對シ此ノ段錢ナル者ノ免除セラレタ
ル例ハ他ノ乙號證中ニ於テモ多散見ス
ル所ナレバ社寺領ニ對シテモ租稅ヲ賦課
シ又ハ之ヲ免除シタルモノナルヲ認ムル
ニ足ルヲ以テ被告主張ヲ採用スルニ由ナ
キモノトス又被告ハ社寺領ニ對スル朱印
狀ノ守護不入諸役免除等ノ文言ハ社寺領
タルコトヲ認ムル一種ノ例文ナリト解釋

スルヲ穩當トスルヲ以テ該文言ヲ唯一ノ
根據トシテ有租地ニ對スル貢租ノ免除ナ
リト斷定スルハ不當ナリトシ朱印狀ハ單
ニ之ニ記載セラルル土地ガ社寺領タルコ
トヲ認ムルニ止リ各種ノ文言ハ無意義ナ
ルカノ如ク主張スト雖モ既ニ説明セルガ
如ク各種ノ文言ハ何レモ各時代ノ必要ニ
依リ變遷セシモノニシテ各特別ノ意義ヲ
有スル者ト認ムルヲ相當トスルヲ以テ是
亦其主張ヲ採用シ難キ者トス又被告ハ朱
印狀ノ免除文言ハ獨リ境内ノミニ限ラズ社
寺領一般ニ對シ書記セラレタルモノナル
ハ乙第十三號乃至第十五號證乙第十七號
證參考乙第五號證ニ依リ明ラカナレバ高地
ハ寺ノ領地即チ公領關係ニ過ギザルモ官
有地ヨリ貢租ヲ納ムベキ理由ナキヲ以テ
社寺ノ境内山林ハ私有地ナリト論斷スル
ハ不當ナリト主張スルモ前記被告引用ノ
各證ハ何レモ境内地ヲ包含セザル公領地
ノミニ關スル文書ト認ベキヲ以テ是亦被
告論旨ヲ是認スルニ由ナキ者トス又被告
ハ朱印狀ヲ下付セラレタル社寺竝其神職
僧侶ガ特種ノ資格待遇ヲ與ヘラレタル點
ヨリ觀テ社寺ハ一箇ノ公ケナル資格ヲ有
シタルモノナルヲ以テ之ニ對スル領知ノ
朱印狀ハ國領ノ一部ヲ社寺ニ所領セシム

ルコトニ關スルモノニシテ其土地ノ所
有ト何等ノ關係ナキコト勿論ナリトスト
云フモ是レ朱印狀ノ文言ハ社寺領タルコ
トヲ認ムル外殆ド意義ナシトセル前段ノ
論旨ト同一ニ歸著スルモノナルノミナラ
ズ貢租ノ免除ト資格待遇ノ特典トハ兩立
シ得ベキモノナルヲ以テ是亦其主張ヲ
採用スルニ由ナキモノトス又被告ハ社寺
領ニ對スル守護不入ハ武家ニ對スルモノ
ト同一ナルハ乙第十六號證ニ依リ明瞭ナ
レバ社寺ニ對スル守護不入諸役免除ノ文
言ハ領知權ノ保障ニシテ所有ノ證トナス
ベキニアラズト云フモ乙第十六號證ハ永
祿十二年即チ足利氏末亂世ノ文書ナレバ
此ノ時代ニ於テ必要上武家ノ領地ニ對シ
テモ「諸不入云云」ノ書面ヲ與ヘタルコト
アリトスルモノヲ以テ直ニ德川氏天下統
一後ノ社寺ニ對スル「境内諸役免除」ノ文
言モ同一意義ナリト解釋スルノ資料トナ
シ難キモノトス又被告ハ社寺領境内ガ檢
地張ニ除地トシテ記載セラルルガ如キハ
元來社寺領ノ國司ノ領土外ニ屬スルヲ以
テ封土石高帳村方檢地水帳等ニ高外ニ除
地トシテ記載セラルルハ寧ロ社寺領地タ
ルノ性質ヲ認ムル一ノ證據ニシテ之ニ依
リテ貢租地ニ對スル免除ナリト斷定スベ

キモノニアラズト云フモ社寺境内除地ト
ハ檢地帳性質其他古文書ニ於ケル記事
ヲ綜合シ社寺境内ニシテ其貢租ヲ免除セ
ラレタルモノト認ムベキモノナルハ當裁判
所明治三十七年第一千三百三十五號件ノ判決
ニ明示スル如クナルヲ以テ此點ニ關シテ
モ亦被告主張ヲ是認シ難キモノトス
之ヲ要スルニ被告ハ總テ社寺境内ハ社寺
ノ公領ニシテ公領地ニハ私有地無カノ如ク
斷定シ又社寺領ハ單ニ祭祀法要ノ爲メ國
ノ領土ヨリ除カレ他ノ干涉ヲ受ケザルコ
トヲ保障セラレタルニ過ギザル者ニシテ
之ニ對シテ性質上租稅ヲ賦課シ得ベキ者
ニアラズトナシ恰モ社寺ハ總テ國立ニシ
テ社寺領ハ本邦建國以來一宗不變ナルモ
ノナルカノ如ク主張スト雖モ是レ實際ニ
於テ社寺ハ概ネ荒蕪地ノ開發若クハ私有
地ノ寄附等ニ依リ創設セラレタルノ事實
ヲ無視シ且各時代ニ於ケル爲政者ハ任意
ニ其領土ヲ與奪シ之ニ租稅ヲ賦課シ若ク
ハ之ヲ減免シ來レル事實ヲ否認スルノ斷
定ナリトス然レバ其朱印狀ハ社寺領タル
ヲ認ムル外各種文言ハ無意義ナリト云フ
ガ如キハ前記斷定ヲ前提トセヨ斷案ニ過
ギズシテ本邦歷史上ノ事實ニ適合セザル
モノト認ムベキヲ以テ其論旨ヲ採用スル

ニ由ナキモノトス
右ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

別冊第一號

行政裁判所裁判宣告書

明治四十三年第二百九十四號
明治四十四年五月二十六日第
一部裁決

東京市淺草區淺草公園

原告 淺草寺

被告 淺草寺住職

右代表者 修多羅亮延

同市下谷區金杉上町六十
六番地平民質商

右信徒總代 佐藤太右衛門

同市日本橋區本町一丁目
十三番地平民吳服商

同上 水島三右衛門

同市淺草區千束町二丁目
三百七十四番地平民農業

同上 松崎龜松

同市淺草區新旅籠町十六
番地平民質商

同上 中川清太郎

辯護士

右訴訟代理人 高木益太郎

同

同 法學博士 岸 清一

同

同 岡崎 正也

同 播磨辰治郎

同 內務大臣男爵

被告

法學博士 平田 東助

辯護士

右訴訟代理人

法學博士 原 嘉道

右當事者間ノ國有土地下戻請求ノ訴訟ニ
付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告カ原告ニ與ヘタル明治四十三年十二
月九日附三東甲第一三九號內務省指令ハ
之レヲ取消ス

被告ハ原告ニ左記ノ土地ヲ下戻スヘシ

一 東京市淺草區公園地自第一區至第五
區

參萬六千九百貳拾九坪五合五勺（內

三社地壹千九拾九坪四合九勺ハ除

之）

二 同上公園地第六區

壹萬參千百貳拾貳坪

三 東京市淺草區馬道町一丁目二十八番

地

七百七拾參坪貳合六勺

四 同市同區同町一丁目二十九番地

八百八坪六勺ノ內元十九番地六號ノ
分

四百貳拾五坪三合六勺四才

五 同市同區同町三丁目自一番地至十五

番地

貳千貳百貳拾七坪參合八勺

六 同市同區駒形町十九番地

五十七坪四合五勺

七 同市同區新畑町自一番地至十一番地

壹千八百參拾參坪五勺

八 同市同區北田原町三丁目十一番地

壹百參拾壹坪參勺

九 同市同區田町一丁目一番地

參百九拾參坪七合五勺

原告カ東京市淺草區馬道町五丁目十、十
四、十七番地貳百四十五坪八合壹勺ノ土
地ニ對スル請求ハ之レヲ棄却ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ原告淺草寺ハ天台宗一
等別格寺ニシテ推古天皇三十六年三月十
八日武藏國豐島郡淺草宮戸川ヨリ出現セ
シ觀世音ノ尊像ヲ其地ニ安置セシニ濫觴
シ孝德天皇大化元年勝海上人同所ニ寺院
ヲ創建スルヲ開基トシテ文德天皇天安元
年慈覺大師本寺ニ寄寓シ堂宇寺院ヲ増建

シ大ニ法燈ヲ輝カス爾來幾多ノ變遷ヲ經
テ後水尾天皇慶長十八年將軍德川家康本
寺境內ヲ拾壹萬四千五百九坪參合八勺貳
オト定メ諸役ヲ免除シ別ニ寺領五百石ヲ
寄附シ黑印ノ判物ヲ附與セルヲ猶三代將
軍家光以來代々御朱印ヲ下附シ之レヲ確
保セラレタルモノニシテ本訴請求ノ地所
ハ右御朱印地境內拾壹萬四千五百九坪參
合八勺貳オノ內舊寺中五拾四ヶ寺ノ敷地
ヲ免除シタル部分ニ相當シ多年竹木諸役
ノ免除ヲ受ケ由緒歷然タル本寺所有境內
ナリシ處明治四年ニ至リ悉ク上地ヲ命セ
ラレ境內堂宇ノ敷地一錐ノ地タモ殘サス
渾ヘテ官有ニ編入セラレタルニ依リ被告
省ニ對シテ其下戻ヲ申請シタルニ聞届ケ
難シトノ指令ニ接シタルヲ以テ本訴ニ及
ヘリト云フニ在リ立證トシテ甲第一號證
乃至第十五號證並ニ競甲第一號證乃至第
十三號證ヲ提出セリ

被告答辯ノ要旨ハ係争ノ土地カ原告寺ノ
境內ナルコトハ之ヲ爭ハサルモ原告寺所
有ノ事實ニ在リテハ之レヲ認ムヘキ證憑
充分ナラス且又係争地中原告ノ訂正申立
ニ係ル第十項ノ一筆ハ下戻申請書及當所
ノ訴狀ニ何等記載ナカリシ區域ニ係ル其
請求ハ不適法ナリ依テ原告ノ請求ハ凡ヘ

テ排斥セラレタシト云フニ在リ立證トシ
テ乙第一號證ヲ提出セリ

理由

案スルニ甲第一號證（慶長十八年成立ノ
黒印狀）ニハ「武藏國豊島郡淺草寺（中略）
山林竹木門前屋敷如舊規諸役令免許事右
堅可守此旨者也」云々ト記載アリ同甲第
二號證（慶長十九年成立ノ黒印狀）竝ニ甲
第三號證乃至甲第十號證（寛永十三年乃
至天保十年成立ノ右朱印狀）ニモ前同文
ニテ「山林竹木門前屋敷等諸役免除寺中法
度以下依當家先判之例永不可有相違之狀
如件」云々ト記載アリ而シテ以上朱黒印狀
中ノ「山林竹木門前屋敷等諸役免除」ト
アル記載カ原告寺舊境内ニ對スル貢租免
除ノ意義ナルコト竝ニ本訴係争地方カ右
境内ノ一部ニ屬スルコトハ被告ニ於テ敢
テ争ハサル事實ニシテ元來貢租ヲ享クヘ
カリシ境内地方カ朱黒印狀ニ依リ免除セラ
レタルモノナレハ反對ノ證據ナキ限り其
社寺ノ私有地ト認定スルヲ相當トストノ
當裁判所既決判例ノ趣旨ニ照ラシ係争地
ハ全ク原告寺ノ私有ニ屬スヘキモノナリ
ト認定ス

原告ハ訴狀提出後ニ於テ一定ノ申立ヲ訂
正シ東京市淺草區馬道町五丁目十、十四、

昭和十四年三月二十四日印刷

十七番地貳百四拾五坪八合壹勺ノ一筆ヲ
係争目的物中ニ追加シ甲拾五號證（下戻
申請書）記載ノ如ク當初ヨリ原告寺舊境
内即上地ヲ命セラレタル部分ノ下戻ヲ申
請スルノ趣旨ナレハ右追加ノ申立ハ不適
法ニ非スト主張スルモ該追加ノ地所ハ當
初ノ下戻申請書竝ニ訴狀ニ全ク記載ナカ
リシモノニシテ現ニ乙一號證（下戻申請
書附屬書圖）ニ表示シアル申請地區域ノ
色別及坪數等ノ各記載中ニモ該地域ニ關
スル表示ナキヲ以テ其請求ヲ不適法ナリ
トスル被告ノ抗辯ハ相當ナリト認ムルニ
依リ原告ハ該地所一筆ニ對シテ何等訴權
ヲ有セサルモノト認定ス

此他原告ハ競甲第一號證乃至第十三號證
ノ記事ニ關シテ種々陳辯スル所アルモ要
スルニ別件明治四十三年第二百七十號競
願事件ノ原告申立ニ對抗スル主張ニ外ナ
ラスト認ムルヲ以テ同事件ノ裁判判決書
ニ於テ之レヲ詳説スル所アルニ依リ茲ニ
之レヲ贅セス

以上説明ノ理由ニ依リ本訴係争地九筆ニ
對スル原告ノ請求ハ相當ニシテ最後ノ一
筆ニ對スル請求ハ之レヲ棄却スヘキモノ
ト認メ主文ノ如ク判決ス

明治四十四年五月廿六日行政裁判所第一

昭和十四年三月二十五日發行

部公延ニ於テ宣告ス

裁判長

行政裁判所長官法學博士山脇 玄

行政裁判所評定官 戸田恒太郎

行政裁判所評定官 田中國三郎

行政裁判所評定官 松本 郁郎

行政裁判所評定官 川瀨 鍛策

行政裁判所書記 羽仁 謙吉

明治四十四年五月二十六日行政裁判所第

一部ニ於テ原本ニ依ル謄寫ス

行政裁判所書記 羽仁 謙吉

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局